埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第124集

白 山 遺 跡 Ⅳ

2011.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第124集

白山遺跡Ⅳ

（しろやまいせき）

2011.3

深谷市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する深谷市は、南は比企丘陵に連なり、北は利根川を挟み群馬県と接しています。この広大な市域の間を荒川が貫流しています。

こうした豊かな自然環境のもと、古代人の暮らした足跡が埋蔵文化財として今なお多く眠っています。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡をはじめとして、再葬墓で著名な上敷免遺跡、県指定史跡の鹿島古墳群、榛沢郡家正倉跡と想定される「中宿古代倉庫群跡」や国指定重要文化財「緑釉手付瓶」を検出した西浦北遺跡など、重要な遺跡が多数存在します。

今回報告する白山遺跡は、昭和45年～47年にかけて大規模な発掘調査が実施され、古墳跡24基、奈良～平安時代の竪穴住居跡90軒余りをはじめとして、中世の館跡なども検出され、注目を集めました。特に、２号墳から出土した女性埴輪４体は、ほぼ原型を留めた貴重なものであり、市指定文化財となっています。

本報告書は、分譲住宅並びに集合住宅建設に先立ち平成22年に実施した白山遺跡９・10次調査の成果をまとめたものです。区画溝に囲まれた中世の館跡などが検出され、白山遺跡の性格を考える上での貴重な資料を追加することができました。

本書が学術・教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成23年３月

深谷市教育委員会
教育長　小　柳　光　春

例　　言

1．本書は、埼玉県深谷市岡に所在する白山遺跡の、平成22年に実施した第９次・10次発掘調査の成果をまとめたものである。

2．発掘調査の期間及び調査担当者は、下記の通りである。

９次調査	平成22年７月６日～平成22年９月５日	宮本直樹
10次調査	平成22年８月２日～平成22年８月31日	宮本直樹

3．出土品の整理・実測・観察表作成は、竹野谷俊夫が行った。

4．図版作成は、宮本直樹・竹野谷俊夫が行った。

5．本書の執筆は、第３章を竹野谷俊夫、それ以外を宮本直樹が担当した。

6．本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．発掘調査位置図は岡部都市計画図（1/ 2,500及び1/ 10,000）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/ 25,000）を使用した。

2．遺構実測図は、現場では基本的に1/ 20とし、本書掲載の段階で1/ 60とした。遺物については、基本的に1/3で掲載し、それ以外を（　）内に表記した。

3．遺物観察表の数値に（　）のあるものは推定値、《　》のあるものは残存値を示す。

4．土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

5．遺構実測図中の英数字は、以下を表す。

ＳＪ：竪穴状遺構　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＤ：溝　　ＳＫ：土坑　　Ｐ：ピット

目　　次

序

例言・凡例

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯 …… 1
　1．発掘調査の経緯 …… 1
　2．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 1

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境 …… 3
　1．地理的環境 …… 3
　2．歴史的環境 …… 3

Ⅲ　発見された遺構と遺物 …… 6
　1．白山遺跡の概要 …… 6
　2．発見された遺構と遺物 …… 6

Ⅳ　まとめ …… 45

挿 図 目 次

第１図　白山遺跡の範囲と調査地点…… 2
第２図　白山遺跡９次・10次調査地点位置図… 2
第３図　周辺の遺跡分布図…… 5
第４図　白山遺跡９次・10次調査全測図…… 7
第５図　白山遺跡９次調査全測図…… 8
第６図　１号住居跡実測図…… 9
第７図　１号住居跡出土遺物実測図……10
第８図　１号掘立柱建物跡実測図……11
第９図　２号掘立柱建物跡実測図……12
第10図　３号掘立柱建物跡実測図……13
第11図　４号掘立柱建物跡実測図……14
第12図　５号掘立柱建物跡実測図……15
第13図　６号掘立柱建物跡実測図……16
第14図　７号掘立柱建物跡実測図……17
第15図　掘立柱建物跡出土遺物実測図……18
第16図　１号溝跡実測図……19
第17図　２号溝跡実測図……20
第18図　３号溝跡実測図……21
第19図　５号溝跡実測図……21
第20図　４号溝跡実測図……22
第21図　溝跡出土遺物実測図……23
第22図　土坑群実測図(１)……28
第23図　土坑群実測図(２)……29
第24図　土坑群実測図(３)……30
第25図　土坑群実測図(４)……31
第26図　土坑群実測図(５)……32
第27図　土坑群出土遺物実測図……33
第28図　ピット群実測図……35
第29図　ピット群出土遺物実測図……36
第30図　表採・その他出土遺物実測図(１)……37
第31図　表採・その他出土遺物実測図(２)……38
第32図　白山遺跡10次全測図……40
第33図　Ａ区１号溝跡実測図……41
第34図　Ａ区２号溝跡実測図……41
第35図　Ａ区土坑群実測図……42
第36図　Ｂ区１号溝跡実測図……43
第37図　Ｂ区１号土坑実測図……43
第38図　Ｃ区１号土坑実測図……43
第39図　Ａ区出土遺物実測図……44
第40図　Ｂ区出土遺物実測図……44
第41図　白山遺跡遺構配置図……47

写 真 図 版

図版１　白山遺跡９次遺構
図版２　白山遺跡９次・10次遺構
図版３　白山遺跡９次遺物
図版４　白山遺跡９次・10次遺物

Ⅰ　発掘調査に至るまでの経緯

１．発掘調査の経緯

白山遺跡（県登録番号№63-008）は、櫛引台地北端部からやや内陸部にかけて位置する。国道17号線と県道蛭川普済寺線に挟まれた範囲であり、東西680m、南北500mを測る。

発掘調査は、工場建設に先立ち昭和45年に埼玉県教育委員会が実施したのが嚆矢である。約7,000㎡に及ぶ奈良～平安時代の竪穴住居跡87軒、掘立柱建物跡４棟、井戸跡１基などが検出された。47年には団地造成に伴い１次調査区の北側約40,000㎡の調査を行い、古墳24基（円墳23、帆立貝式１）古墳時代住居跡１、奈良～平安時代の竪穴住居跡１軒を検出した。その後も、各種開発に先立ち発掘調査を実施してきた。

今回報告するのは、平成22年度に実施した白山遺跡の発掘調査の結果である。両調査ともに事業主や土地所有者の協力の下、必要最小限の措置を講じたものである。

以下、発掘調査に至るまでの経緯を記す。

⑴　白山遺跡９次調査

宅地造成に先立ち、平成22年４月30日付けで、埋蔵文化財の所在についての協議文書が、ファイブズホーム　代表取締役　細井保雄氏（以下、事業主と記す）から深谷市教育委員会（以下「市教委」と記す）宛に提出された。市教委は、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が白山遺跡内であること、遺跡の詳細な内容を把握するための確認調査が必要である旨を書面にて５月７日に回答した。５月18日付けで確認調査依頼書が提出されたのを受け、５月25日に確認調査を実施し、溝跡や土坑を確認した。その後、市教委と事業主とで協議を行ったが、工事内容の変更は不可能であり、遺跡の破壊が避けられないことから、記録保存のための発掘調査を実施することで双方が承諾した。

開発に先立ち事業主から文化財保護法93条第１項に基づく埋蔵文化財発掘届が、平成22年６月21日付けで、埼玉県教育委員会教育長宛に提出された。これを受けて、市教委では、文化財保護法99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を同年６月23日に提出した。

⑵　白山遺跡10次調査

介護施設建設に伴う建築確認申請に先立ち、平成21年４月15日付けで、埋蔵文化財の所在についての照会文書が、株式会社とち・たてもの情報館　代表取締役　芝野徹（以下、事業主と記す）から深谷市教育委員会（以下「市教委」と記す）宛に提出された。市教委は、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が白山遺跡内であること、遺跡の詳細な内容を把握するための確認調査が必要である旨を４月15日に書面にて回答した。４月20日付けで確認調査依頼書が提出されたのを受け、４月23日に確認調査を実施し、土坑等の遺構の存在を確認した。その後、市教委と事業主と協議を行ったが、工事内容の変更は不可能、遺跡の破壊が避けられないことから、記録保存のための発掘調査を実施することで双方が承諾した。

開発に先立ち事業主から文化財保護法93条第１項に基づく埋蔵文化財発掘届が、平成22年８月１日付けで、埼玉県教育委員会教育長宛に提出された。これを受けて、市教委では、文化財保護法99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を同年８月６日に提出した。

２．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

教育長	小柳　光春
教育次長	塚原　寛治
次長	澤出　晃越
課長	小林　毅
課長補佐	吉場　厚仁
係長	村松　篤
主査	宮本　直樹
〃	知久　裕昭
主任	荻野　直美
主事	幾島　審
〃	飯島　峻輔
臨時職員	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	北本ゆかり
〃	佐藤　由江
〃	布施みゆき
〃	松井紀代子

第１図　白山遺跡の範囲と調査地点

第２図　白山遺跡９次・10次調査地点位置図

Ⅱ　遺跡の地理・歴史的環境

１．地理的環境

埼玉県の北部に位置する深谷市は、北は利根川を挟んで群馬県と接する。南部には荒川が東流し、両河川が最も近接する地域である。

深谷市の南半部は櫛引台地、北半部は妻沼低地であり、地形的に二分できる。櫛引台地は、荒川によって形成された荒川扇状地が浸食されてできた洪積台地である。寄居付近を頂点として、西側の櫛引面と東側の一段低い寄居面、両者に挟まれるように御稜威ケ原面からなる。この間を唐沢川や藤治川が北流する。また、台地上には、観音山（標高77m）、仙元山（標高98m）、山崎山（標高117m）などの独立丘陵が存在する。台地の北端は崖線を形成し、比高差５～10mで妻沼低地と接する。

妻沼低地は、利根川の作用で形成された沖積低地である。さらに、利根川をはじめ小山川・福川などによって、自然堤防や後背湿地が形成されたと推定されている。

白山遺跡は、櫛引台地北部の深谷市岡字白山他に所在する。ＪＲ高崎線岡部駅の北東に位置し、東西900m、南北600mの範囲に及ぶ規模の遺跡である。かつては、駅から少し離れると住宅も少なく、畑地が広がっていたが、西半部は宅地造成により、岡里団地となっている。

２．歴史的環境

白山遺跡の立地する櫛引台地北部は、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査が多く実施されてきた。調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から爪形文系・多縄文系土器などが検出され、草創期の土器として研究上重要なものである。早期では、撚糸文系土器が西谷遺跡、沈線文系土器が中原・西谷遺跡、条痕文形土器が西龍ケ谷・西谷・茶臼山遺跡から発見されている。前期では宮西遺跡で関山式期、四十坂遺跡で黒浜式期、沖田・東光寺裏遺跡で諸磯Ｂ式期の集落跡が検出されている。中期では、水窪遺跡で勝坂式期～加曽利Ｅ１式期、菅原遺跡で加曽利Ｅ３式期の環状集落が発掘調査されている。後期では、上宿遺跡で敷石住居跡が検出されている。晩期では、原ケ谷戸遺跡の発掘調査で、安行Ⅲａ式期の良好な資料が出土している。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。平成２年の発掘調査では、再葬墓や土坑墓群が検出され、弥生時代の開始を窺わせる資料として重要である。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連綿と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横矧板鋲留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から５世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、６世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稲荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・前原愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら単独で築造されたことが認められる。

原ケ谷戸遺跡は、方形周溝墓６基、円形周溝墓１基、円墳21基、帆立貝式古墳１基が検出されている。四十坂遺跡と針ヶ谷排水路の両岸に立地し、両古墳群の変遷過程のあり方が共通することが注目される。

熊野遺跡の東に接する白山古墳群では、６世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳１）が調査された。弾琴埴輪や壺を捧げ持つ巫女の埴輪など６体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

この他に、菅原古墳群・前原古墳群・上原古墳群などが台地上に展開する古墳群であり、西山古墳群・千光寺古墳群・諏訪山古墳群などが丘陵上に立地する古墳群である。

なお、櫛引台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛引台地以外に分布の中心が認められる。

また、該期の遺跡として、狢山祭祀遺跡が挙げられ

る。畑の開墾中に偶然土製模造品が出土し、３回の開墾で形が判明したものだけでも100点を超える模造品を中心に数点の土師器が含まれる。遺跡が古代榛沢郡と児玉郡・那珂郡の郡界に存在する山崎山丘陵の斜面に位置することから、坂の神を祭った遺跡であったことが推定されている。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに166次に及ぶ調査が実施され、720軒を超える竪穴住居跡、160棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組井戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、和銅開寶・蹄脚硯・円面硯・帯金具・唐三彩陶枕・刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

なお、集落の開始時期は、131次調査の１・２号竪穴住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、７世紀第３四半期と考えられている。さらに、１次調査において検出された７間×３間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。

また、櫛引台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、５次にわたる調査の結果、大規模な総柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。榛沢郡衙に伴う正倉跡と推定され、７世紀後半の成立であることから熊野遺跡との関連が想定される。また、中宿遺跡が立地する台地直下から、「滝下大溝」が検出された。その北東で条里遺構が確認されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていた大溝であったことが想定される。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡は、８世紀第２四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などが古くから多量に表採され、廃寺跡と推測されてきた。平成14年度に町教委が実施した確認調査により、版築された基壇状遺構が検出された。近接する住居跡からは、「榛」の刻字瓦や「寺」と墨書された土師器坏なども出土し、寺院跡である可能性がほぼ確実となった。

なお、この岡廃寺の北側、中宿遺跡の東側にもあたる台地末端上に、島護産泰神社が鎮座する。北側は崖線であり、現在でも湧水が認められる。創建時期は不明であるが、これらの状況から、古代に遡る可能性を指摘しておきたい。

このように、奈良～平安時代の櫛引台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

古代から中世にかけては、猪俣党の岡部六弥太忠澄や丹党の榛沢六郎成清の活躍が『平家物語』などから知られる。

14世紀中ごろ、北関東の新田氏の勢力を抑え、さらに関東から越後に至る通路確保のために関東管領上杉憲顕の命により六男憲英が庁鼻和城を築いたのが、深谷上杉氏の始まりであるといわれる。深谷城は、古河公方の勢力に備えるために、深谷上杉氏が康正２年（1456）に築城した説が有力であるという。当年９月17日には利根川沿いの岡部原（現在の深谷市岡部周辺）で古河軍と上杉軍が衝突している。この他に、岡部六弥太館跡からは、方形に廻る堀跡や井戸、土坑墓などが検出された。同様な堀跡は、熊野遺跡と白山遺跡からも検出され、館跡に付属するものと推定されている。西龍ヶ谷遺跡では、軸を揃えて並んだ６棟の掘立柱建物群が確認された。

1．熊野遺跡　（律令期集落・官衙・中世居館）
2．中宿遺跡　（郡衙正倉・律令期集落）
3．滝下遺跡　（河川跡・律令期集落）
4．岡廃寺　（寺院跡・古墳～律令期集落）
5．岡部条里遺跡　（古墳集落・条里水田・律令期居宅）
6．砂田前・樋詰遺跡（古墳～平安集落）
7．白山遺跡　（古墳群・律令期集落・中世居館）
8．新田遺跡　（律令期集落）
9．上宿遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
10．四十坂遺跡　（縄文集落・弥生再葬墓・周溝墓・古墳群）
11．原ケ谷戸遺跡　（縄文・古墳集落・古墳群）
12．水窪遺跡　（縄文・古墳集落・周溝墓・古墳群）
13．新井遺跡　（律令期集落）
14．東五十子遺跡　（古墳・中世集落）
15．六反田遺跡　（古墳・中世集落）
16．大寄遺跡　（縄文・弥生～律令期集落）
17．西浦北遺跡　（縄文・古墳～律令期集落）
18．東光寺裏遺跡　（縄文・平安集落）
19．榛沢六郎成清館跡（中世）
20．石蒔遺跡　（古墳～平安集落・周溝墓）
21．地神祗遺跡　（古墳～平安集落）
22．千光寺遺跡　（古墳群・平安集落）
23．西谷遺跡　（縄文）
24．茶臼山遺跡　（古墳群）
25．伝上杉館跡　（中世）
26．山河聖天社　（中世）
27．西龍ヶ谷遺跡　（律令期集落・中世居館）
28．伝岡部六弥太館跡（中世）
A．四十坂浅間山古墳（円墳）
B．寅稲荷塚古墳　（前方後円墳）
C．お手長山古墳　（帆立貝式古墳）
D．前原愛宕山古墳　（方墳）
E．内出八幡塚古墳　（円墳）
F．四十塚古墳群　（古墳群）

第３図　周辺の遺跡分布図

Ⅲ　発見された遺構と遺物

１．白山遺跡の概要

白山遺跡は、櫛引台地北端部に展開する。遺跡の標高は55m前後で、南西から北東に向かって緩やかな傾斜を有している。遺跡から北東へ約600mで台地縁辺部に達し、眼下には利根川及び小山川により開析された妻沼低地が開けている。沖積地との比高差は、約18mである。

遺跡はＪＲ高崎線岡部駅の北東500mに位置し、国道17号線と県道蛭川普済寺線に挟まれた範囲である。遺跡の西半部は岡里団地となっているが、東半部は民家と畑の混在する地域である。

白山遺跡は、古墳群及び奈良～平安時代にかけて営まれた複合遺跡である。榛沢郡初期評家と推定される熊野遺跡とは、埋没谷を挟み東に接する。

白山遺跡における発掘調査は、工場建設に先立ち昭和45年に埼玉県教育委員会により実施されたのが始まりです。約7,000㎡におよぶ調査の結果、奈良～平安時代の掘立柱建物跡４棟、竪穴住居跡80軒余りが検出され、多量の土器類や鉄製品などが出土した。

47年には、団地造成に伴い１次調査地点の北側約40,000㎡の範囲が旧岡部町教育委員会により調査され、古墳跡24基（円墳23、帆立貝式１）と古墳時代から平安時代の住居跡６軒が検出された。古墳周溝からは、人物・馬形・鶏形埴輪や器財埴輪をはじめとして多くの円筒埴輪などが出土した。なかでも、巫女と想定される女性埴輪５体と琴を弾く男子埴輪がほぼ完全な形で出土しており、平成９年に町指定文化財となった。また、中世の遺構としては、方形に巡る溝をもつ館跡や掘立柱建物跡が検出された。

その後も、工場やアパート建設・個人住宅建築に先立ち発掘調査が実施されている。

２．発見された遺構と遺物

今回報告する調査地点は、９次調査が深谷市岡字白山209-３番地、10次調査が同222-１番地であり、両地点は南北に接している。２次調査地点の東隣にあたる。

開発がほぼ同時期になされることから、発掘調査も並行して行った。調査により発見された遺構は、両地点ともに中世のもので、掘立柱建物跡や竪穴住居跡、溝跡などがある。

⑴　９次調査

１号住居跡（第６図）

１号住居跡はＤ・Ｅ－５グリッドに位置する。住居北側で４号溝跡と重複する。断面観察から４号溝跡により切られていることが確認されている。平面形態は略方形で、規模は東西3.00m、南北3.00m、深さ0.48mである。主軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。床面は平坦で締まっていた。ピットは合計13基検出された。柱穴は壁柱穴で、四隅と壁中央部に各１基、計８基を基本とする構成になるものと考えられる。カマドや周溝跡等の付属施設は検出されなかった。

出土遺物はカワラケ、常滑甕片、瓦質土鍋、鉄釘、土錘(第７図１～５)が出土した。時期は中世と考えられる。

１号掘立柱建物跡（第８図）

１号掘立柱建物跡はＢ－２・３グリッドに位置する。２×２間の総柱建物と考えられるが、建物跡が調査区の西側に接している事から、調査区外に延びる桁行２間以上の建物の可能性もある。規模は桁行長4.20m、梁行長3.42mである。主軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。

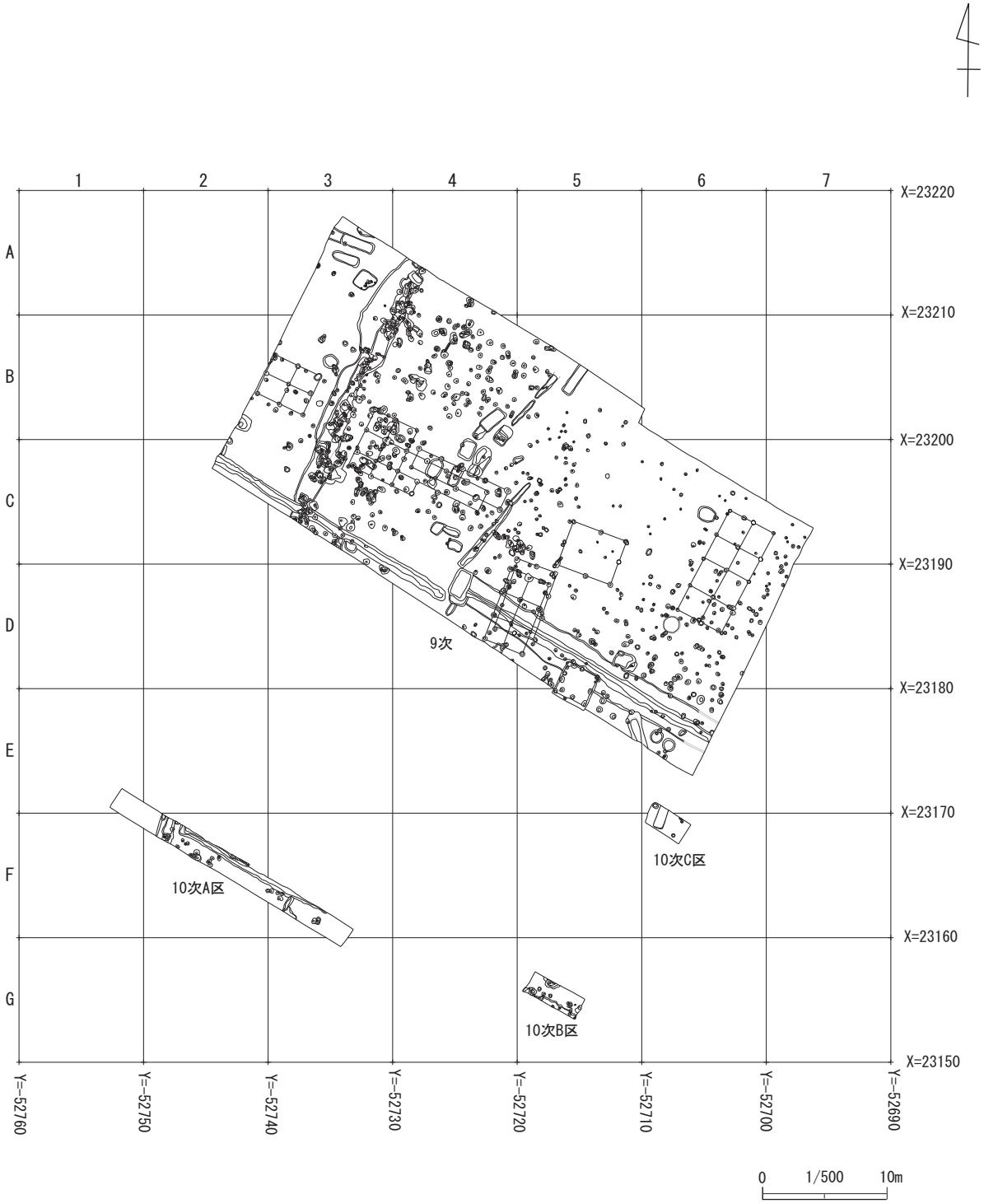
桁行の柱間は2.10m等間で、梁行は1.74m等間である。Ｐ10～12は束柱と考えられる。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

２号掘立柱建物跡（第９図）

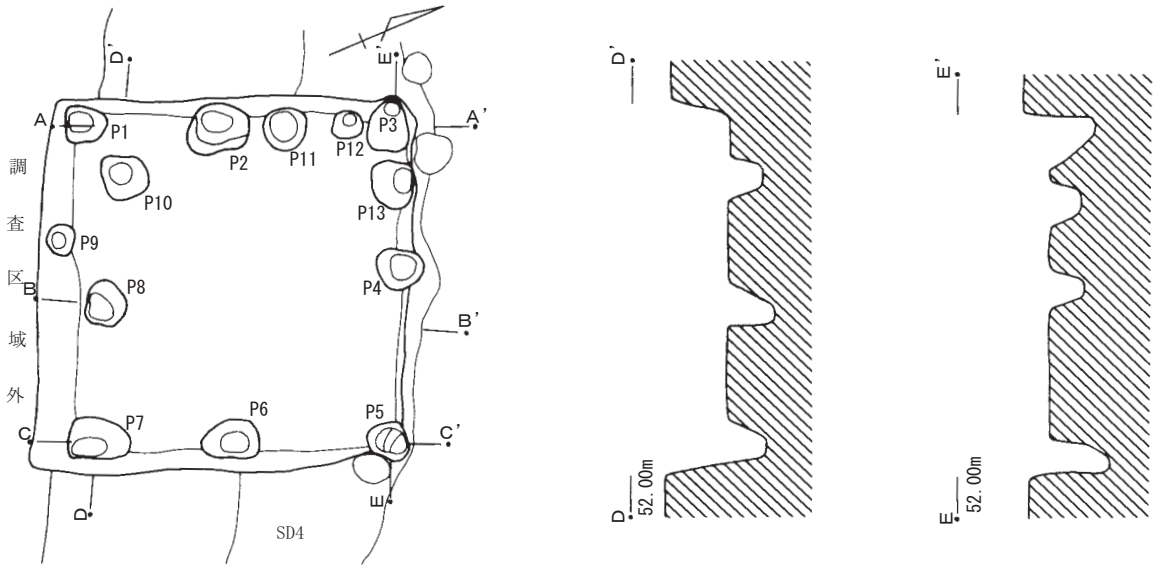
２号掘立柱建物跡はＢ・Ｃ－３・４グリッドに位置し、10･15･16号土坑、３号掘立柱建物跡と重複する。２×３間と南面の東西列は３間の総柱建物と、１×４間の側柱建物で構成された建物である。規模は総柱建物が桁行の柱間1.20m、1.90m、1.80mで、梁行1.90m等間となる。柱穴の深さは0.10～0.60mである。側柱建物は桁行1.90m等間で、梁行1.90mである。主軸方位はＮ－26°－Ｅを示す。

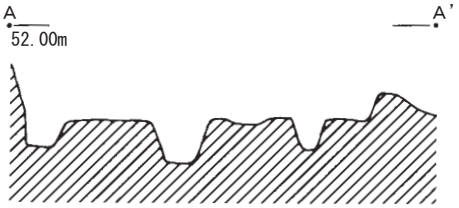
出土遺物はＰ６から角閃石安山岩の加工礫が出土した。根固め石と思われる。３号掘立柱建物跡との重複関係は不明であるが、主軸が揃うことと、ほぼ同じ規模の側柱建物であることから建て替えの可能性がある。また、総柱建物の南面梁行幅が短いことから妻廂の可能性も考えられ、２×２間の廂付き建物で厩の可能性がある。時期は不明確であるが中世と推定される。

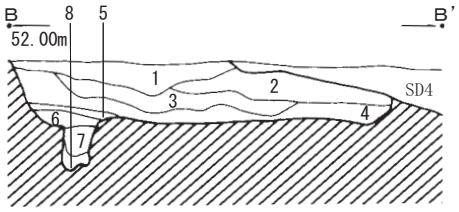


第４図　白山遺跡９次・10次調査全測図

第５図　白山遺跡９次調査全測図

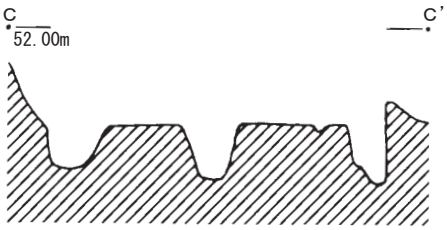


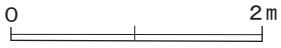




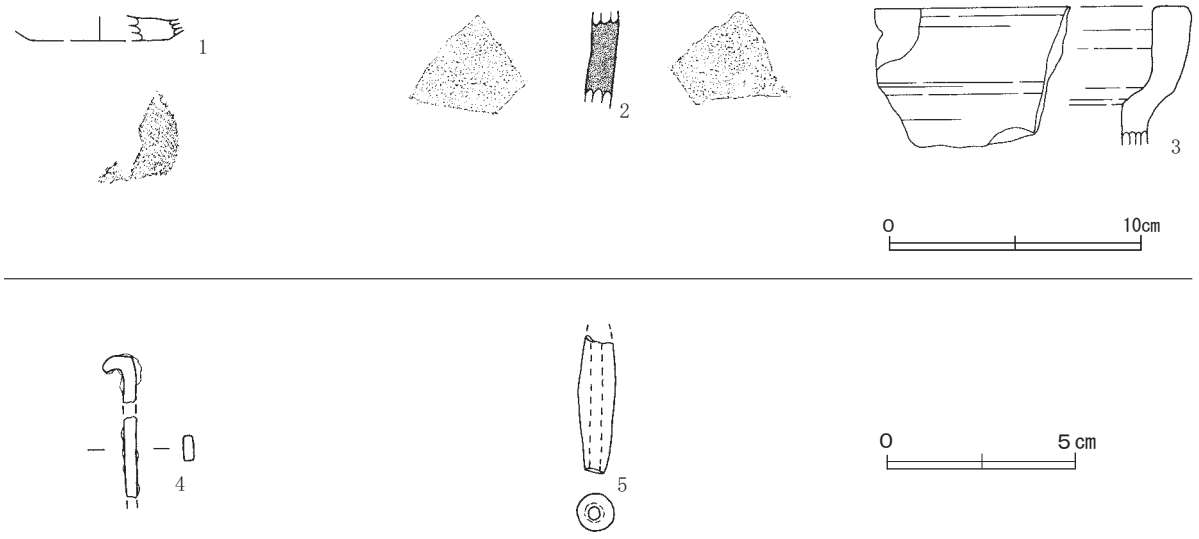
1号住居跡土層説明

1	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黒色土	ローム粒少量。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
5	黒褐色土	ローム粒少量。
6	黄褐色土	ローム粒非常に多い。
7	黒色土	ローム粒微量。
8	黄色土	ローム主体。





第6図　1号住居跡実測図



第７図　１号住居跡出土遺物実測図

３号掘立柱建物跡（第10図）

３号掘立柱建物跡はＣ－４グリッドに位置し、２号掘立柱建物跡、13･15･16号土坑と重複する。１×４間の側柱建物で、桁行の柱間は2.10m等間で、梁行1.62mである。主軸方位はＮ－65°－Ｗを示す。重複関係は不明確であるが、主軸方位が同じで、規模がほぼ同じ側柱建物であることから、２号掘立柱建物に建て替えた可能性がある。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

４号掘立柱建物跡（第11図）

４号掘立柱建物跡はＤ－４･５グリッドに位置する。５号掘立柱建物跡、４号溝跡と重複する。２×３間の総柱建物で桁行1.98m等間、梁行1.62m等間である。主軸方位はＮ－21°－Ｅを示す。柱穴の深さは30～60cmである。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

５号掘立柱建物跡（第12図）

５号掘立柱建物跡はＣ・Ｄ－４･５グリッドに位置し、４号掘立柱建物跡と４号溝跡と重複する。新旧関係は４号溝跡より古いことが判明しているが、５号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。２×３間の側柱建物で、桁行5.70m、梁行3.36mである。柱間は桁行1.92m等間、梁行1.62m等間である。主軸方位はＮ－20°－Ｅを示す。柱穴の深さは0.18～0.42mである。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

６号掘立柱建物跡（第13図）

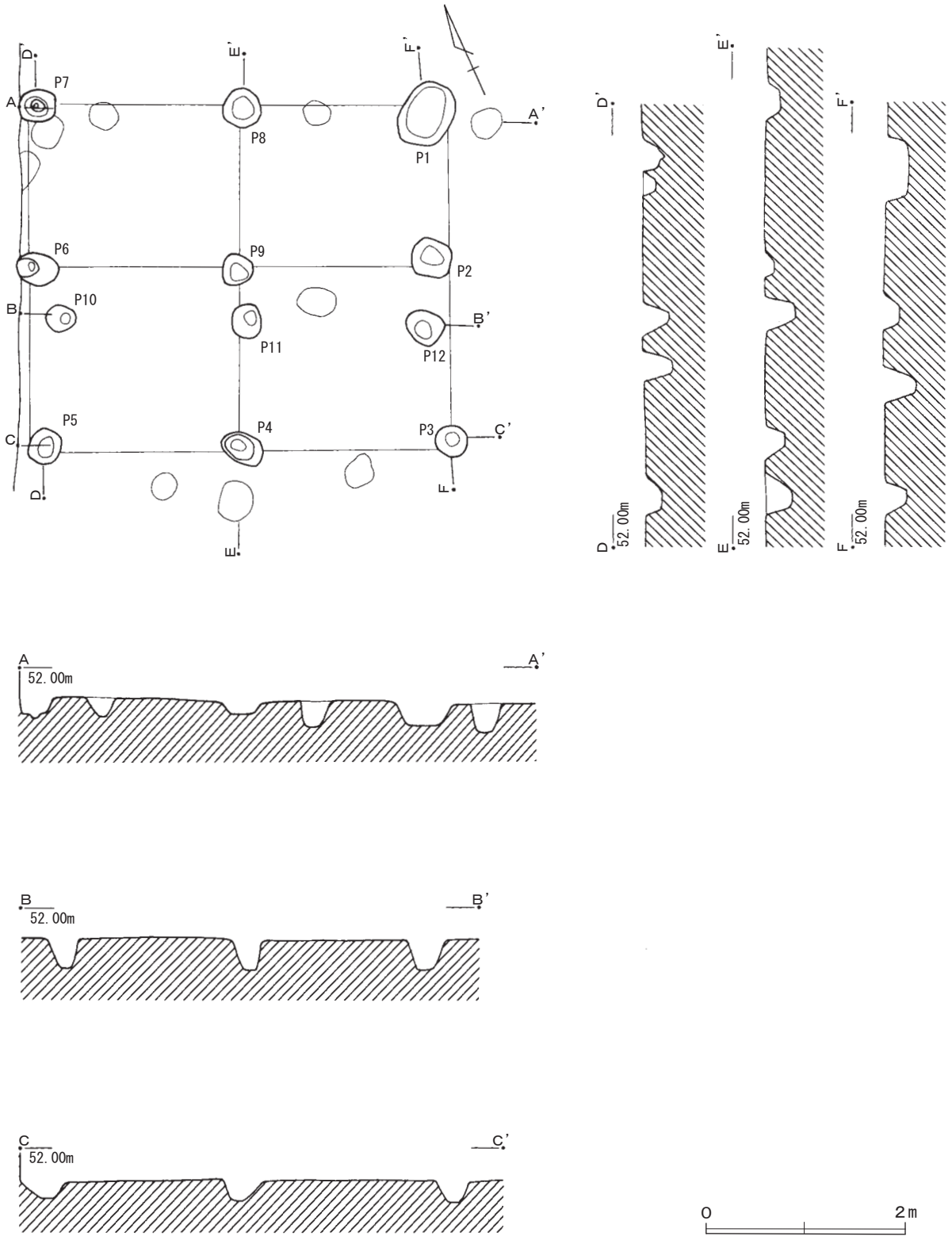
６号掘立柱建物跡はＣ･Ｄ－５グリッドに位置する。２×２間の側柱建物で、規模は桁行4.56m、梁行3.72mで、柱間は桁行2.22m、梁行1.92mである。主軸方位はＮ－69°－Ｗを示す。柱穴の深さは0.12～0.30mである。南東側の中間柱が検出されなかった。

出土遺物はなかった。時期は不明確であるが中世と考えられる。

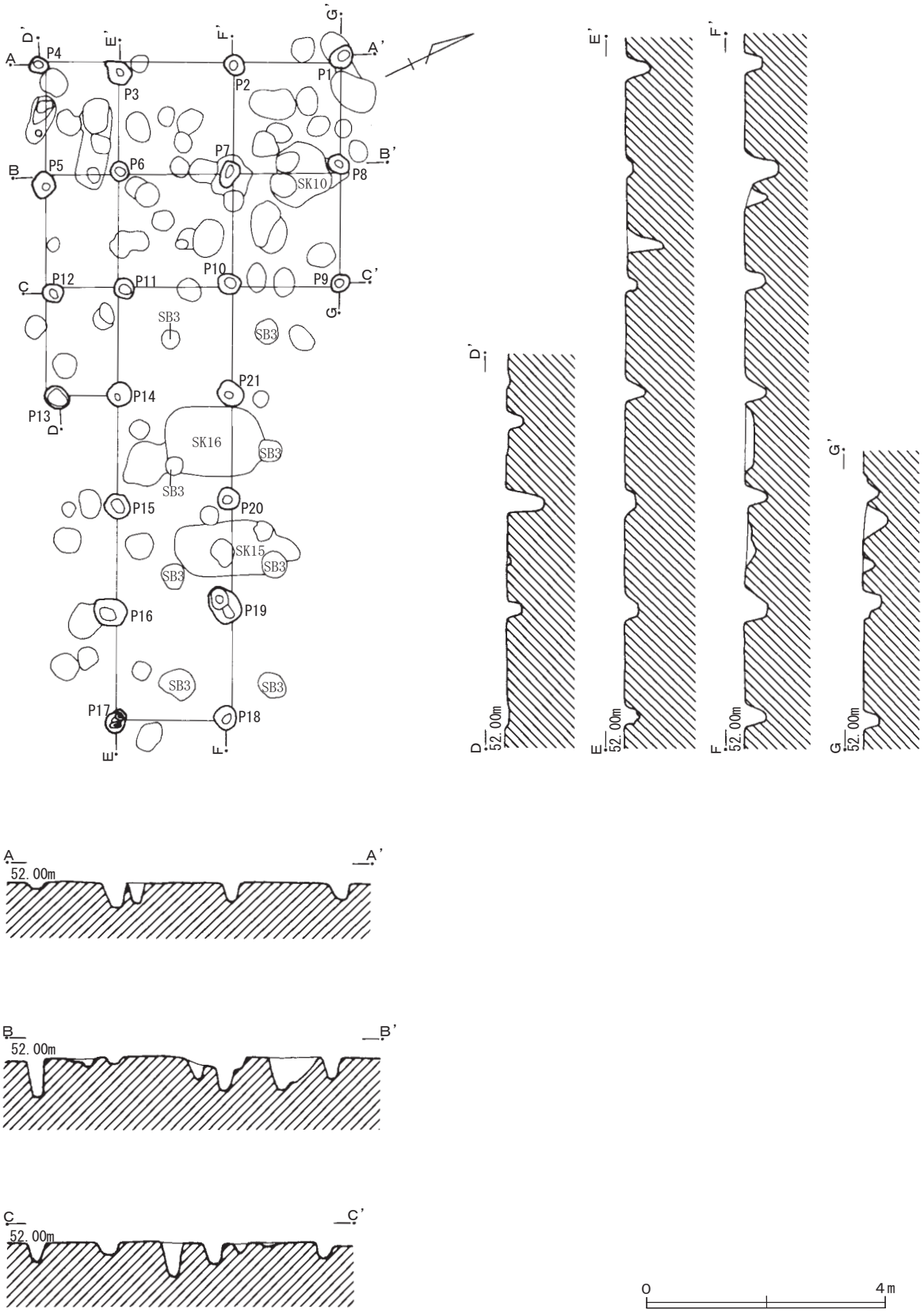
７号掘立柱建物跡（第14図）

７号掘立柱建物跡はＣ・Ｄ－６･７グリッドに位置する。２×４間の総柱建物で、規模は、桁行9.04m、梁行4.08m、柱間は桁行2.40m、梁行1.6mである。主軸方位はＮ－28°－Ｅを示す。柱穴の深さは0.08～0.40mである。南側の中間柱Ｐ12と、東側Ｐ２は検出できなかった。

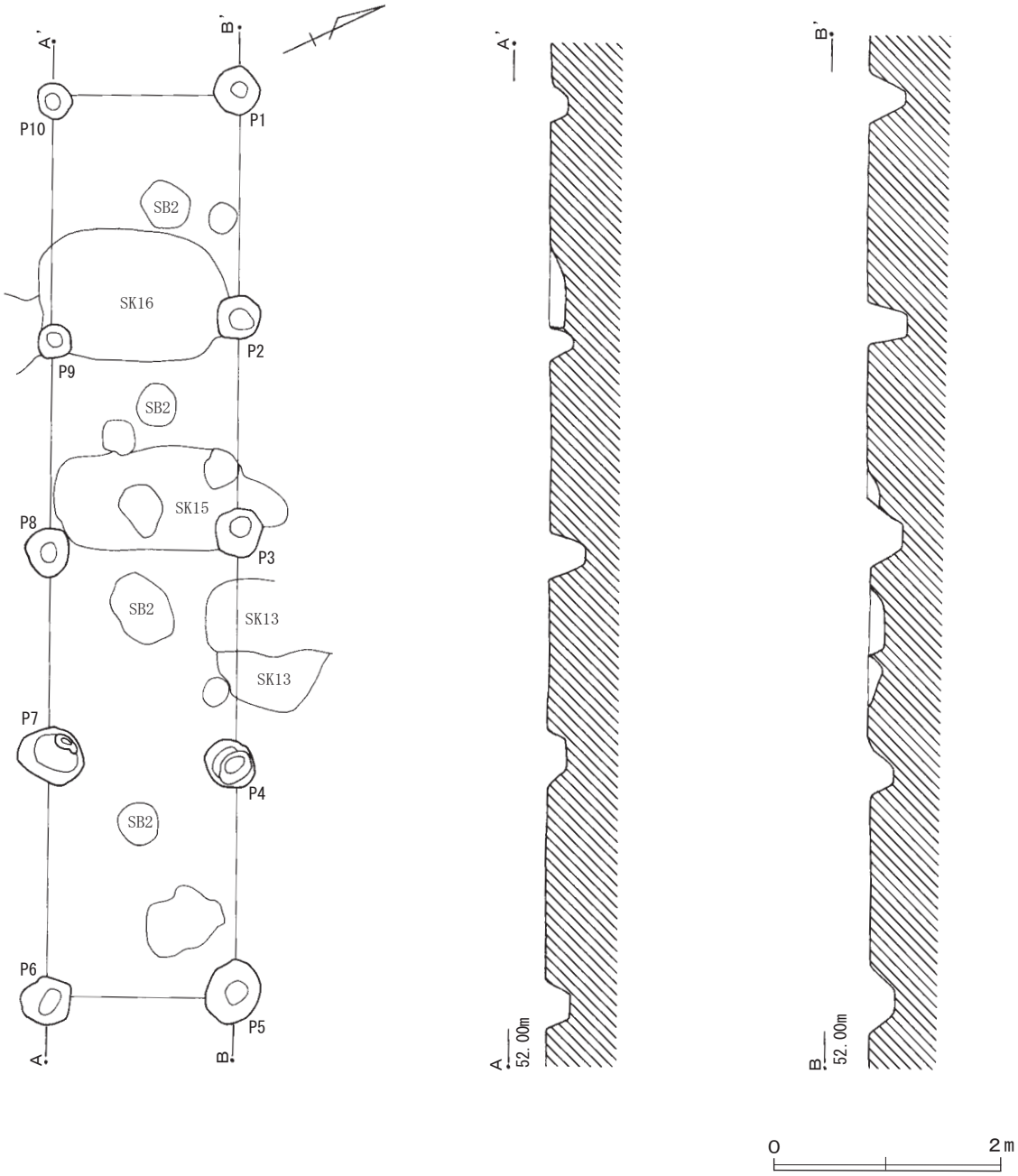
出土遺物はなかった。時期は不明確であるが中世と考えられる。



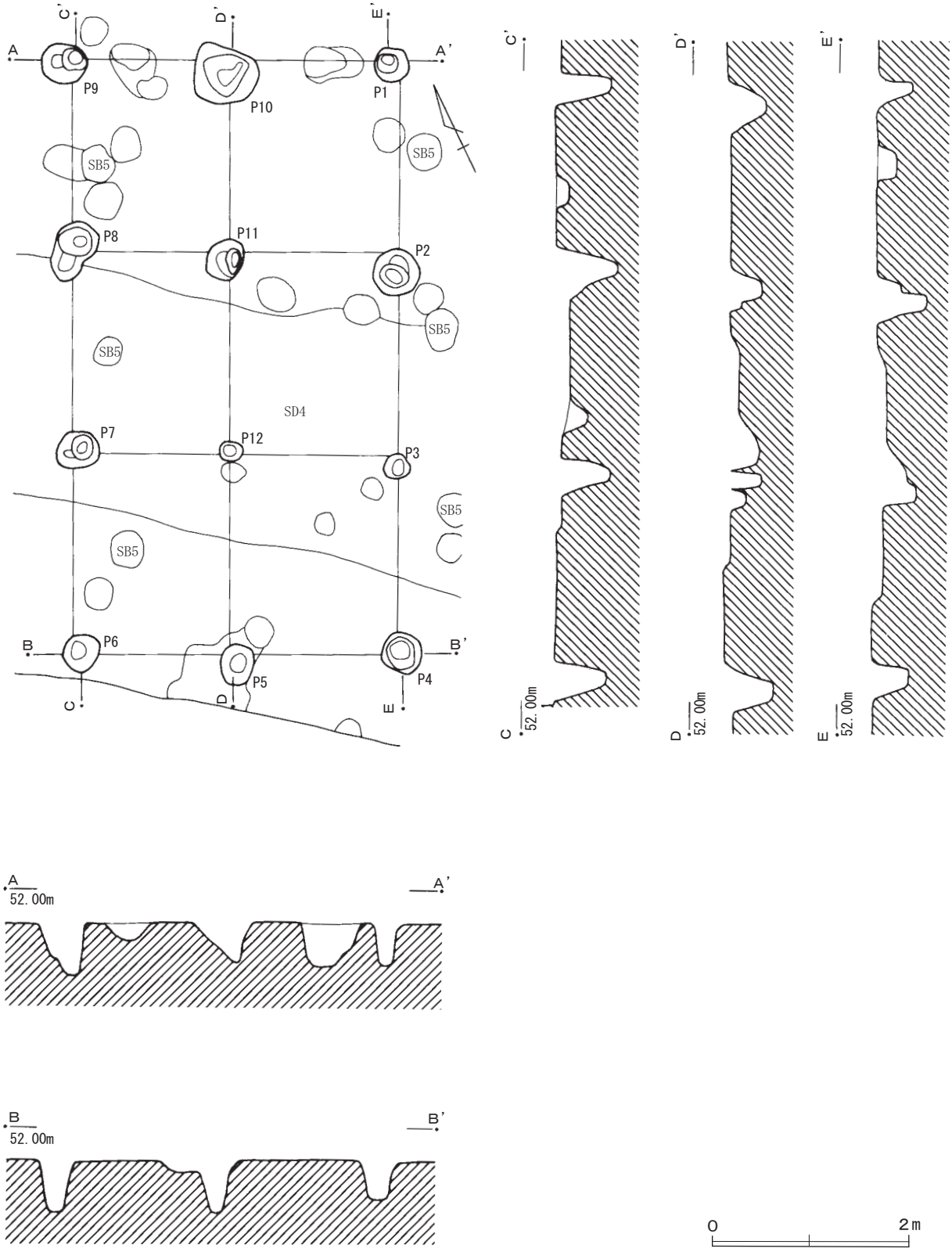
第８図　１号掘立柱建物跡実測図



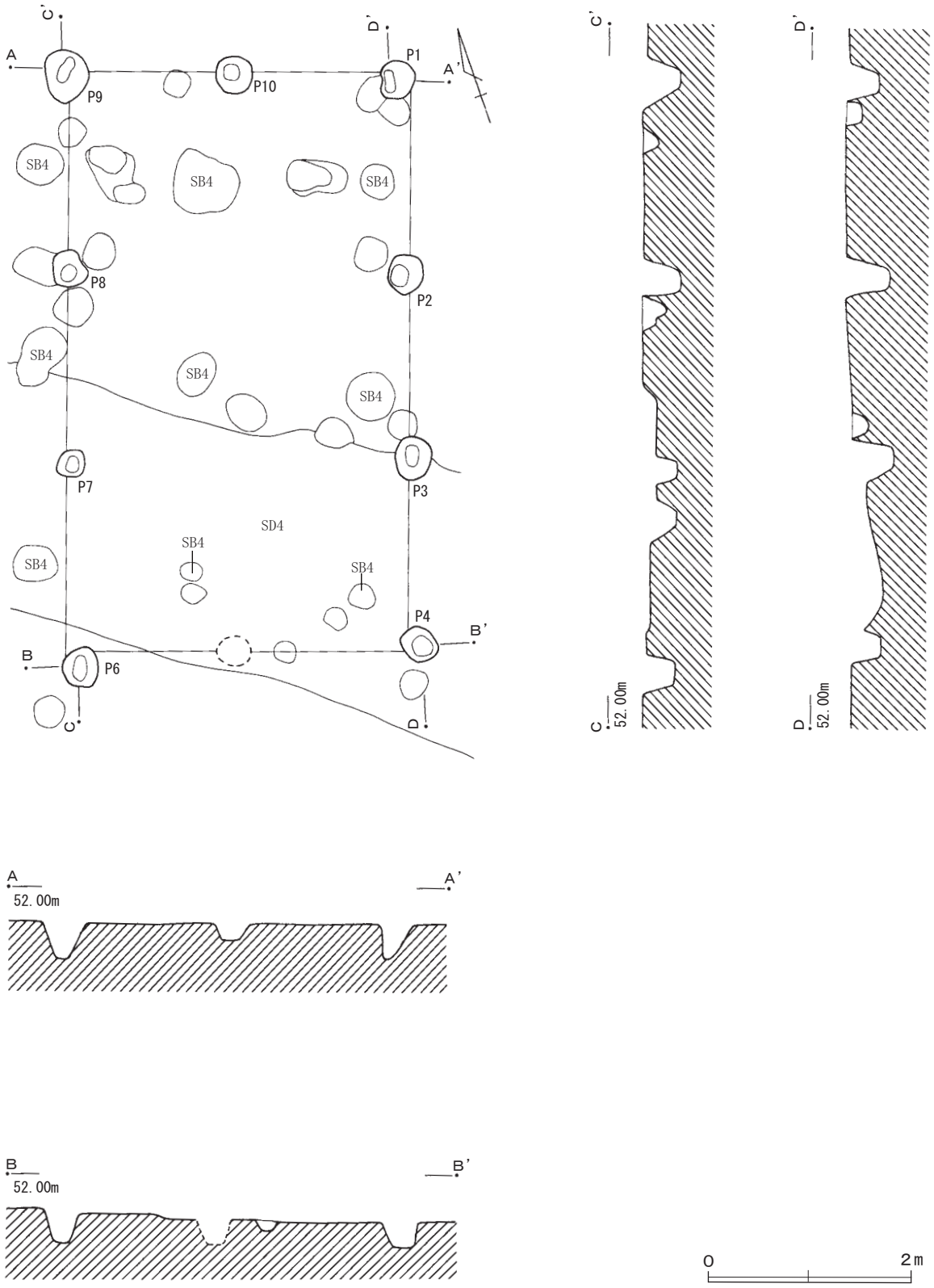
第９図　２号掘立柱建物跡実測図



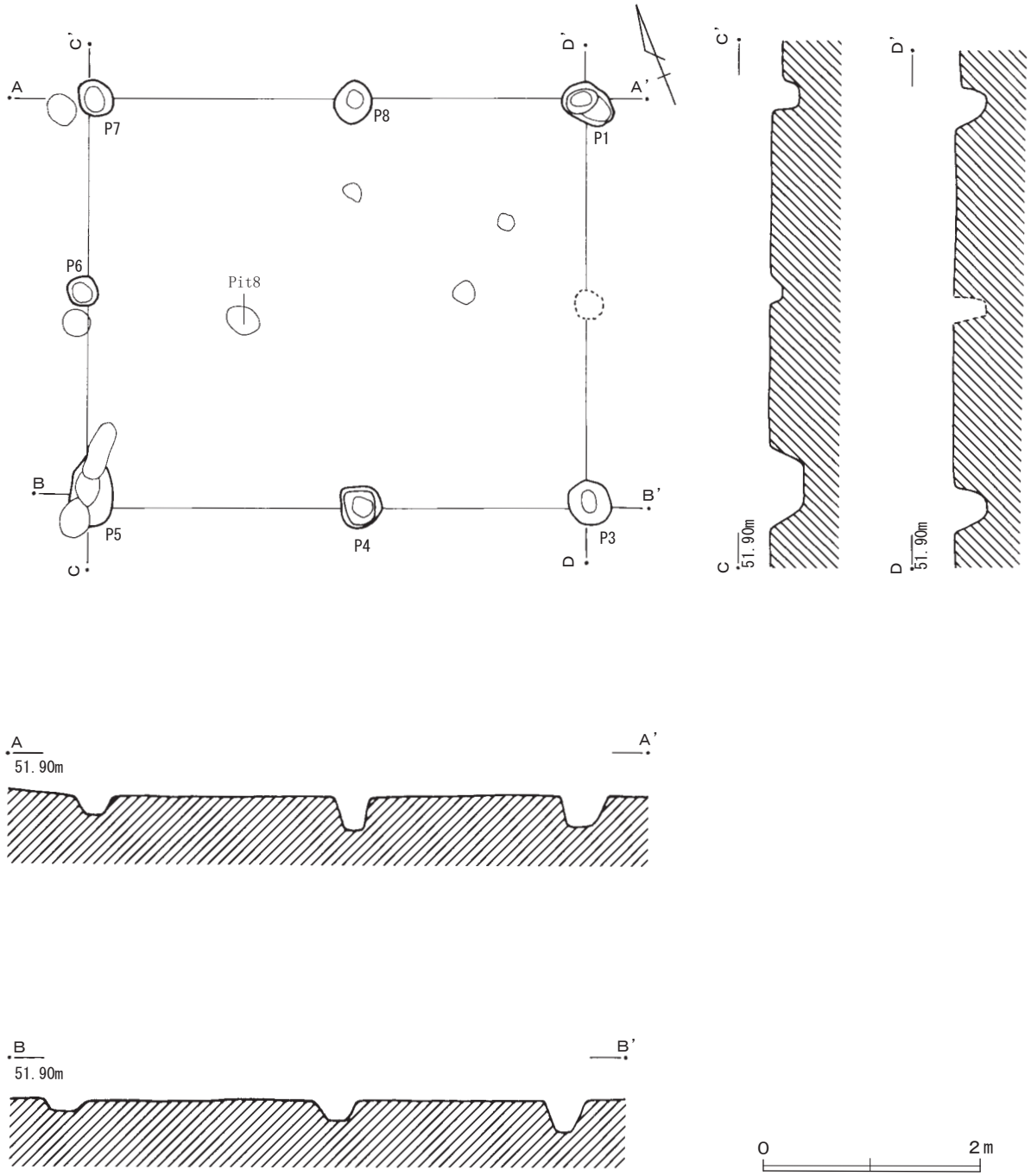
第10図　３号掘立柱建物跡実測図



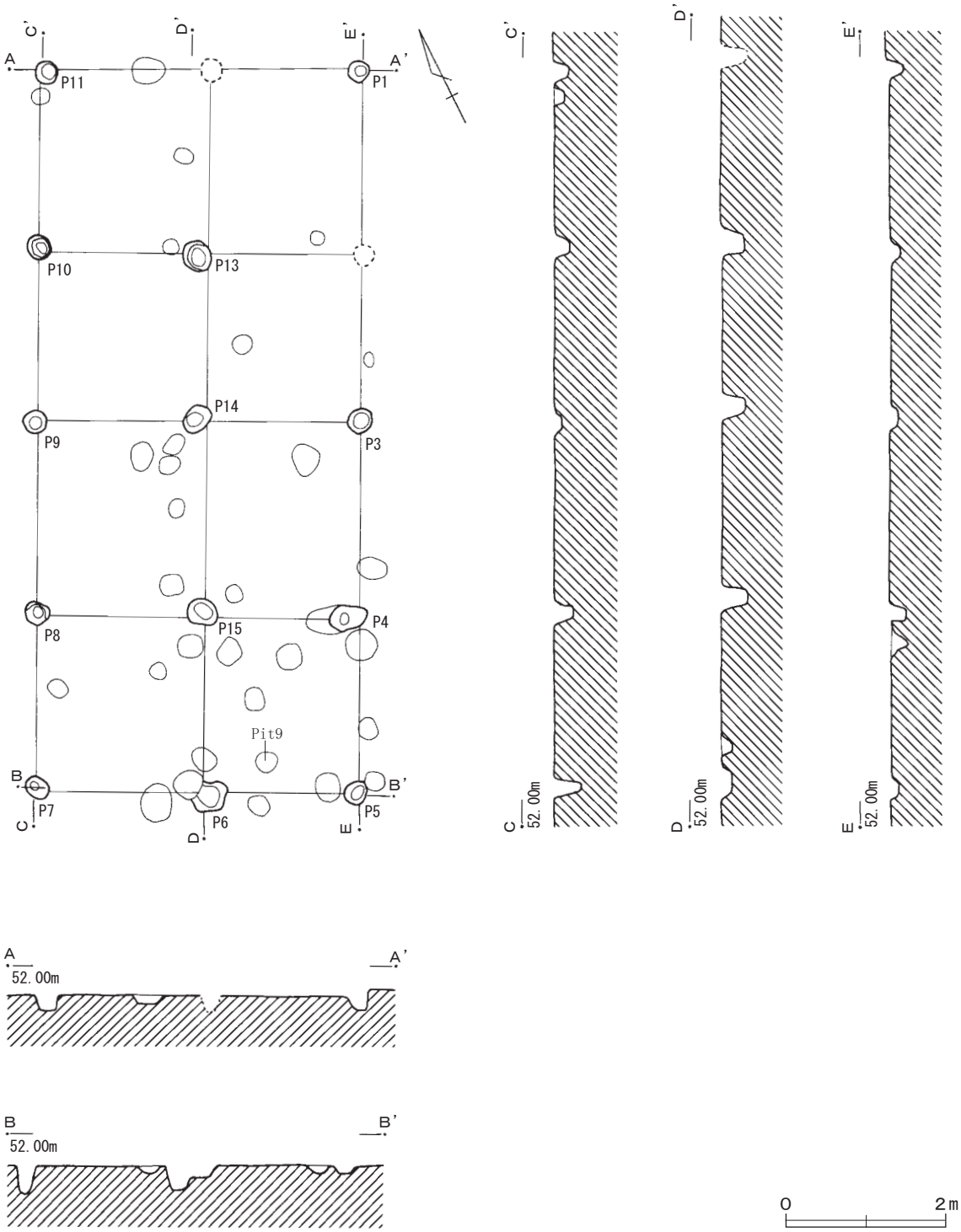
第11図　４号掘立柱建物跡実測図



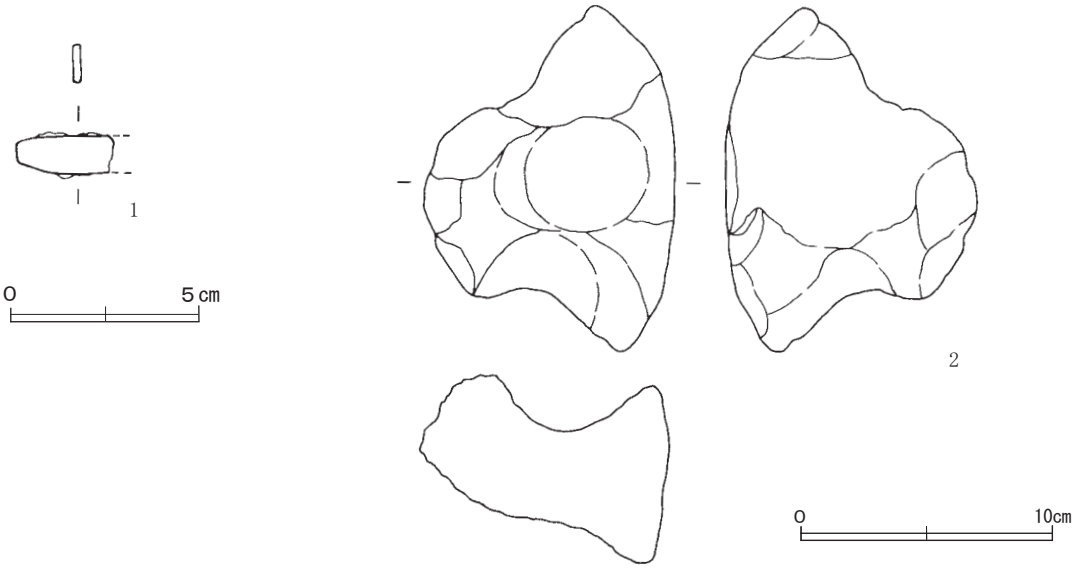
第12図　５号掘立柱建物跡実測図



第13図　6号掘立柱建物跡実測図



第14図　７号掘立柱建物跡実測図



第15図　掘立柱建物跡出土遺物実測図

掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	不明鉄製品	長さ2.5cm、幅1.0cm、厚さ0.25cm、重さ1.7g、薄板状						破片	SB-6、P-5覆土
2	加工礫	長さ13.6cm、幅10.0cm、最大厚8.1cm、重さ453g、石質角閃石安山岩							SB-2、P-6、根固め石

１号溝跡（第16図）

１号溝跡はＣ－２～Ｄ－４グリッドに位置する。南東から北西に走行し、西側で調査区外に延びる。またＣ－３グリッドで２号溝跡と直交する。新旧関係は１号溝跡が２号溝跡より新しいことが確認されている。規模は長さ21m、幅0.５～１m、深さ0.12～0.24mで、埋土は浅間Ａ軽石を多量に含む灰褐色土である。

出土遺物は瀬戸･美濃系鉄釉、長石釉の陶器片が出土している。時期は近世と考えられる陶器片の出土や、浅間Ａ軽石の存在から近世後期18世紀頃と推定される。

２号溝跡（第17図）

２号溝跡はＡ－４～Ｃ－３グリッドに位置する。北東から南西に走行し調査区外に延びる。またＣ－３グリッドで１号溝跡と直交する。新旧関係は２号溝跡が１号溝跡より古いことが判明している。規模は検出長22.56m、幅1.44～3.24m、深さ0.06～0.15mである。

出土遺物は土師器片、板碑の残片、角閃石安山岩の加工礫が出土した。時期は不明確であるが、１号溝跡との重複関係から、中世後期以降18世紀以前と考えられる。

３号溝跡（第18図）

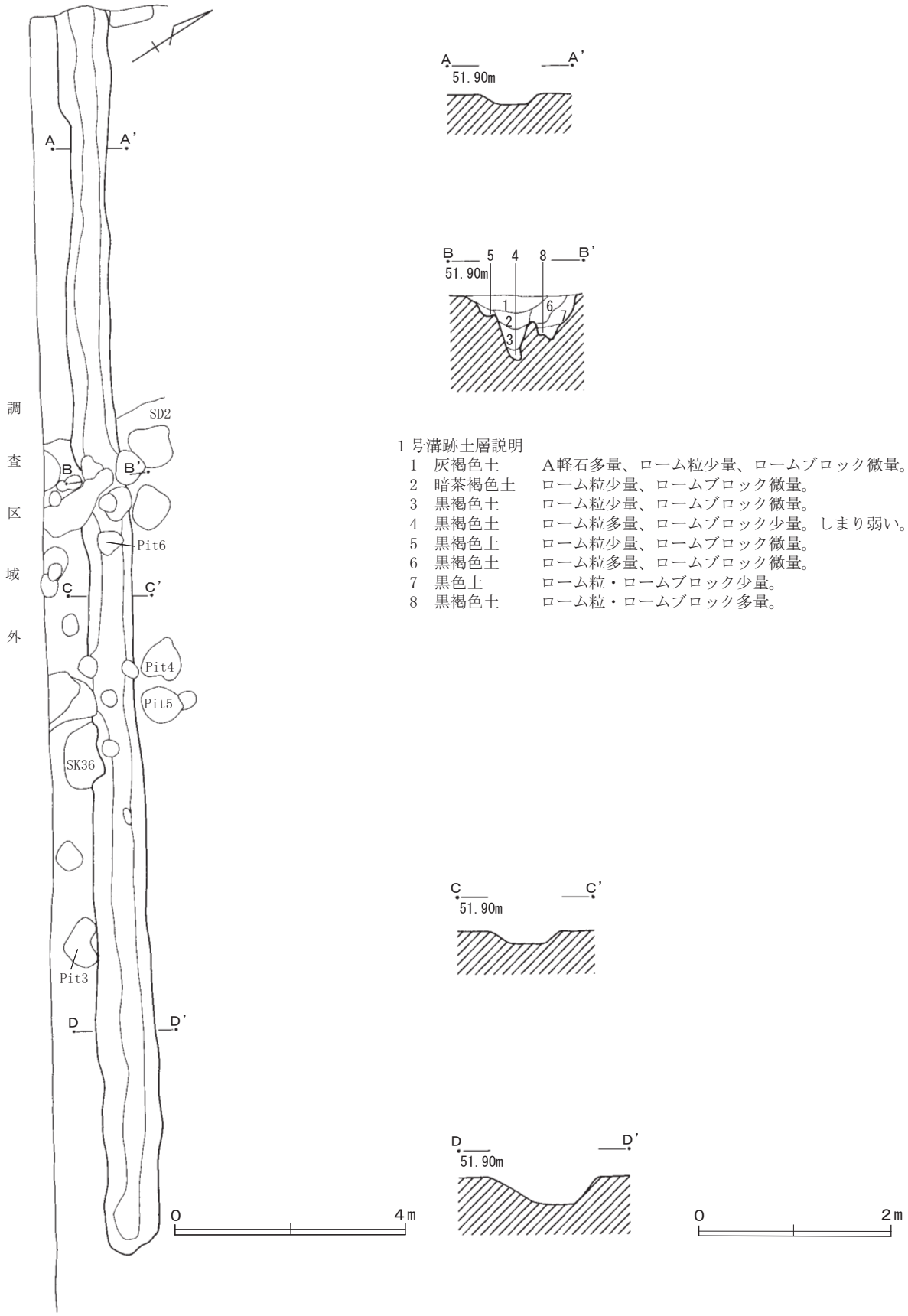
３号溝跡は、Ｃ－４・５～Ｄ－４グリッドに位置する。規模は、長さ8.64m、幅0.30～0.72m、深さ0.06～0.11mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

４号溝跡（第20図）

４号溝跡はＤ－４･５･６～Ｅ－６に位置する。北西から南東に走行し調査区外に延びる。北西端は21･23号土坑と重複し、さらに４･５号掘立柱建物跡、１号住居跡と重複している。規模は検出長22.9m、幅2.30～3.00m、深さ0.12～0.37mである。新旧関係は１号住居跡より新しいことが断面観察から確認されている。埋土は浅間Ａ軽石を多量に含む灰褐色土である。

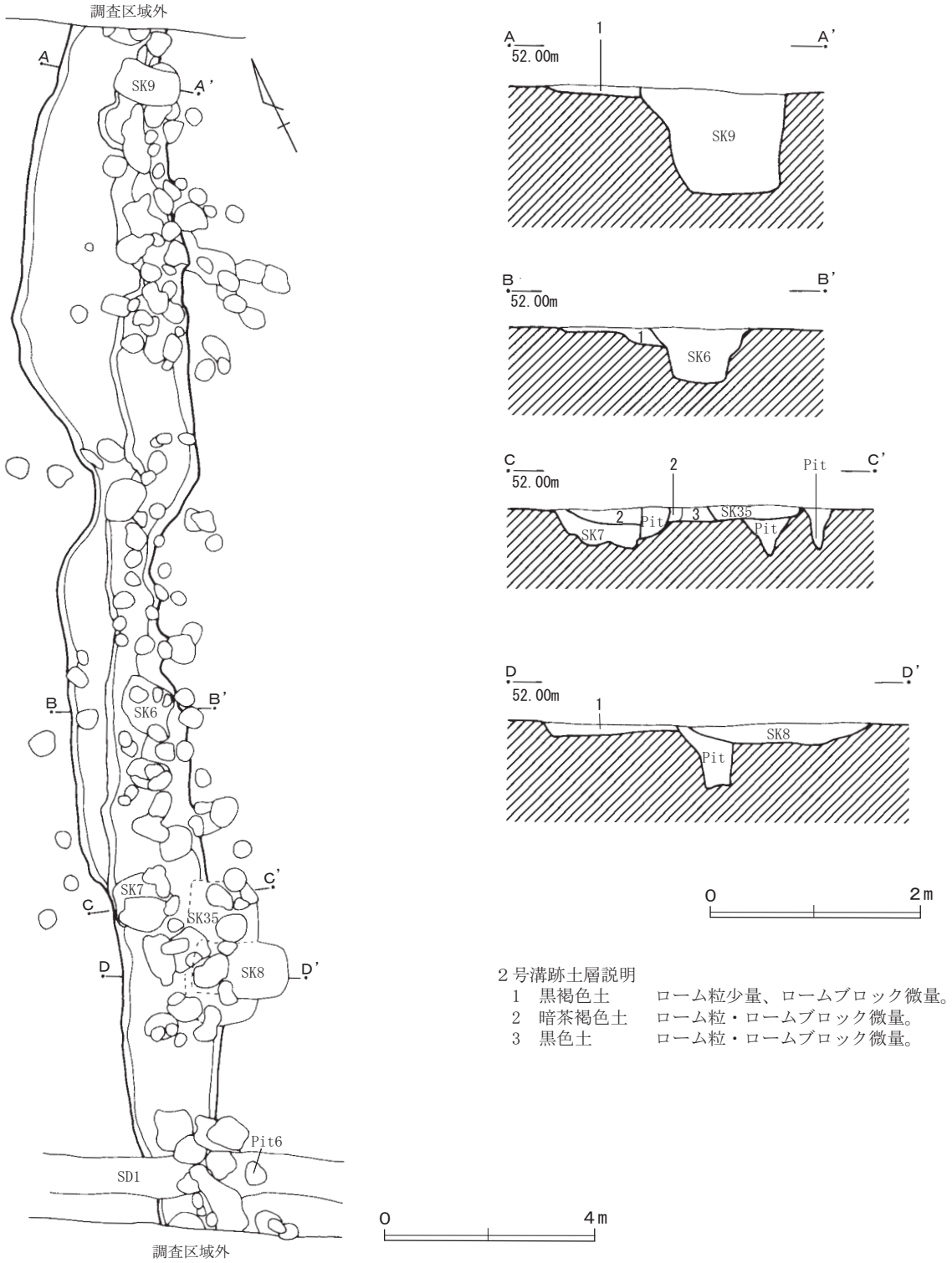
出土遺物はカワラケ、瀬戸･美濃系鉄釉鉢、備前系灰釉碗、染付碗、砥石、常滑甕、古銭、鉄釘等が出土した。古銭は寛永通宝と錆で判読不能の鉄銭である。時期は中世後期から近世で18世紀後半頃には埋没していたものと考えられる。



1号溝跡土層説明

1	灰褐色土	A軽石多量、ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
3	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
4	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。しまり弱い。
5	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
6	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
7	黒色土	ローム粒・ロームブロック少量。
8	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。

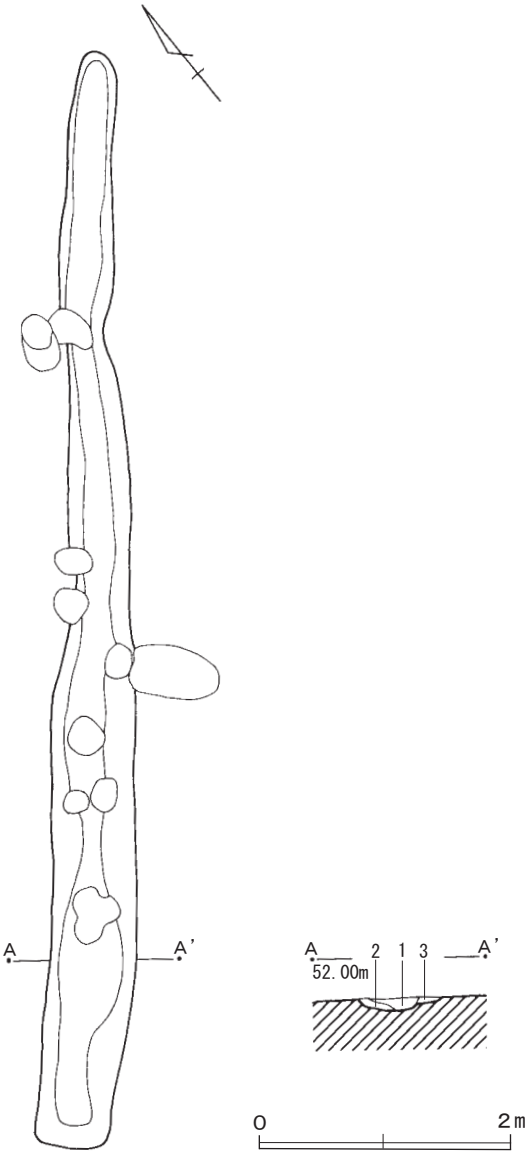
第16図　1号溝跡実測図

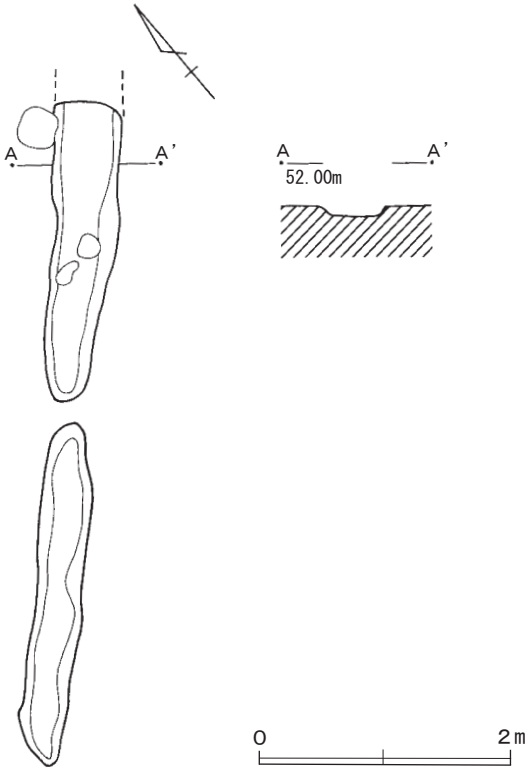


2号溝跡土層説明

1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量。
3	黒色土	ローム粒・ロームブロック微量。

第17図　2号溝跡実測図



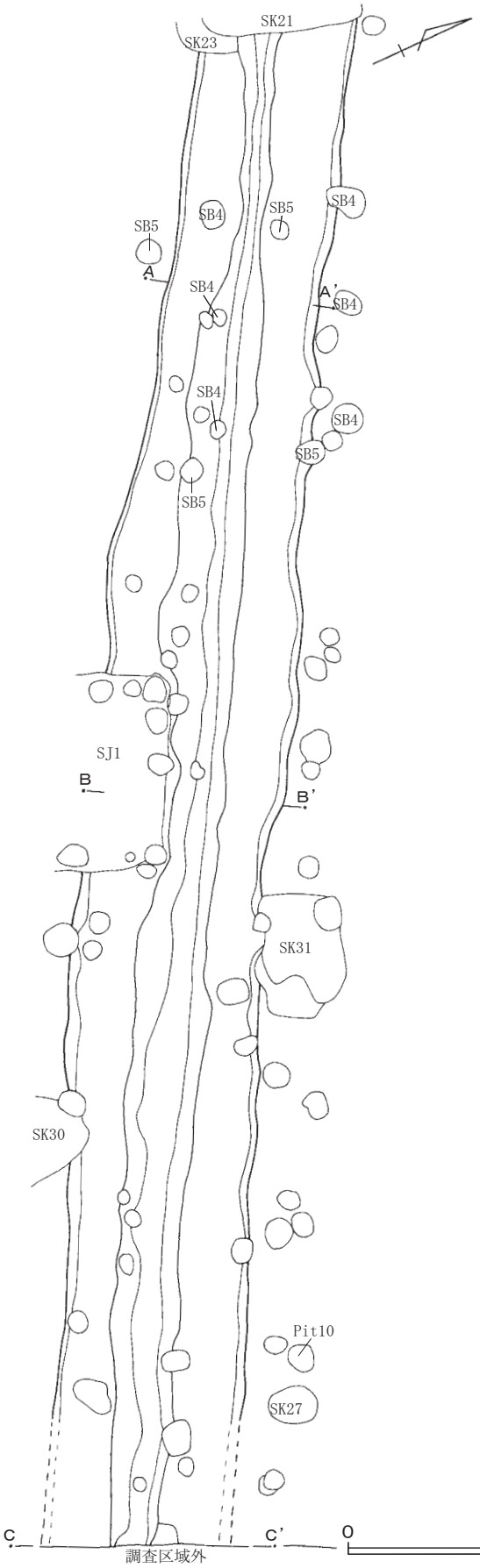


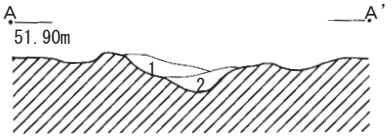
第19図　５号溝跡実測図

３号溝跡土層説明

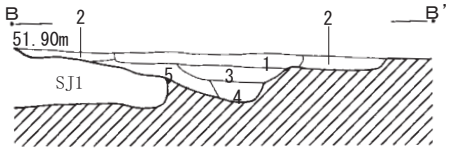
1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
3	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。

第18図　３号溝跡実測図

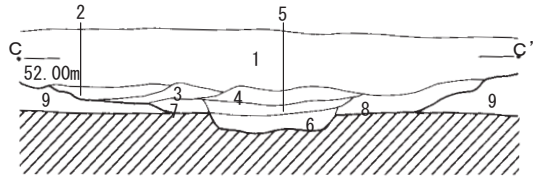




A－A'
1　暗茶褐色土　　ローム粒少量。
2　黒褐色土　　ローム粒・ロームブロック微量。



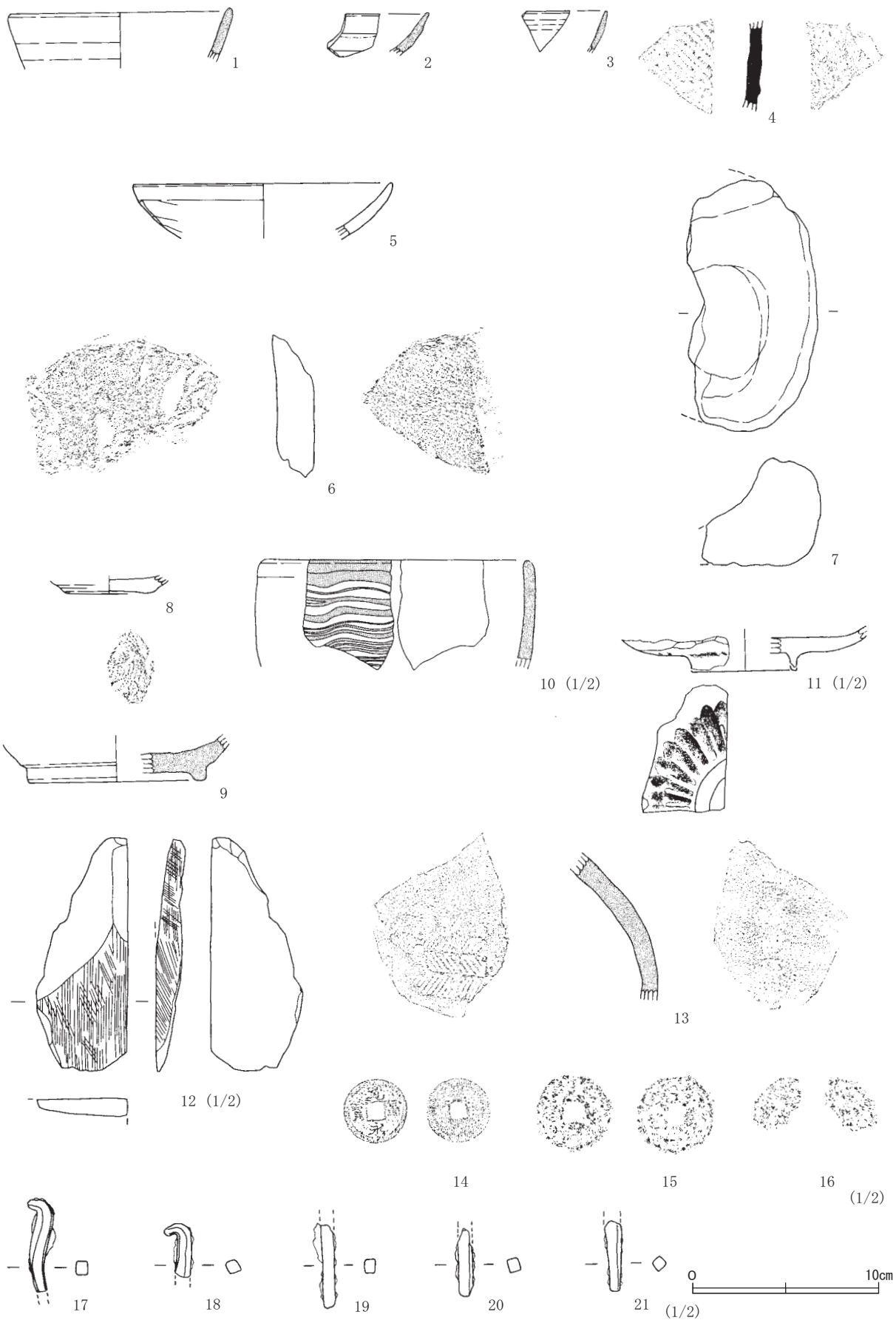
B－B'
1　灰褐色土　　トレンチ跡。
2　茶褐色土　　A軽石・ローム粒少量、ロームブロック微量。
3　暗茶褐色土　ローム粒微量。
4　黒褐色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量。
5　茶褐色土　　ローム粒多量、ロームブロック微量。



C－C'
1　灰褐色土　　A軽石少量、ローム粒微量。
2　灰褐色土　　ローム粒微量。
3　暗灰褐色土　ローム粒・白色パミス少量。
4　茶褐色土　　ローム粒・ロームブロック・A軽石少量。
5　灰褐色土　　A軽石多量、ローム粒微量。
6　黒色土　　ローム粒少量、ロームブロック微量。
7　灰褐色土　　ローム粒多量、ロームブロック少量。
8　灰褐色土　　ローム粒・ロームブロック微量。
9　黄褐色土　　ローム主体。

0　2m

第20図　４号溝跡実測図



第21図　溝跡出土遺物実測図

溝跡出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	鉄釉・碗	(11.7)	《3.0》	-	暗褐色	良好	精良	図示10%	SD-1、瀬戸・美濃系陶器
2	鉄釉・小皿	-	-	-	灰褐色	良好	精良	破片	SD-1、瀬戸・美濃系陶器
3	長石釉・碗	-	-	-	乳白色	良好・堅緻	精良	破片	SD-1、瀬戸・美濃系陶器
4	須恵・甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	SD-1、外面平行叩き、内面青海波叩き
5	土師・坏	(13.7)	《3.0》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10%	SD-2
6	板碑	長さ7.7cm、幅10.3cm、厚さ2.0cm、重さ225g、石質緑泥片岩						破片	SD-2
7	加工礫	長さ13.5cm、幅7.0cm、厚さ5.8cm、重さ253g、石質角閃石安山岩							SD-2
8	カワラケ	-	《0.9》	(5.0)	黄灰褐色	普通	微砂粒	図示30%	SD-4
9	鉄釉・鉢	-	《2.5》	(9.4)	暗褐色	良好	精良	図示25%	SD-4、瀬戸・美濃系陶器
10	灰釉・碗	(9.4)	《3.9》	-	暗灰緑色	良好	緻密	図示10%	SD-4、刷毛ぬり、備前系陶器
11	染付・碗	-	《1.4》	(3.7)	灰白色	良好	精良	図示20%	SD-4、菊花文、備前系？磁器
12	砥石	長さ8.4cm、幅3.2cm、厚さ0.9cm、重さ22.7g、石質頁岩						破片	SD-4
13	甕	-	-	-	灰褐～灰緑	良好	長石、やや粗い	破片	SD-4、常滑、体部に押印
14	古銭	外径23.6mm、内径18.9mm、内郭外径7.8mm、内郭内径5.7mm、外縁厚1.2mm、文字面厚0.8mm、重さ2.3g							SD-4、寛永通宝、銅製
15	古銭	外径26.7mm、内郭内径6.6mm、厚さ2.3mm、重さ3.5g							SD-4、文字不明、鉄製、錆膨れ
16	古銭	厚さ1.8mm、重さ0.9g						破片	SD-4、文字不明、鉄製、錆膨れ
17	鉄釘	長さ3.4cm、幅0.7cm、厚さ0.5cm、重さ4.0g						破片	SD-4
18	鉄釘	長さ1.9cm、幅0.7cm、厚さ0.5cm、重さ1.5g						破片	SD-4
19	鉄釘？	長さ3.9cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.7g、						破片	SD-4
20	鉄釘？	長さ2.4cm、幅0.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.2g						破片	SD-4
21	鉄釘？	長さ2.6cm、幅0.6cm、厚さ0.4cm、重さ1.0g						破片	SD-4

５号溝跡（第19図）

５号溝跡はＢ－４・５グリッドに位置し、北東から南西に走行する。規模は長さ5.28m、幅0.36～0.54m、深さ0.10～0.15mで、中ほどで途切れている。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

１号土坑（第22図）

１号土坑は調査区の北東Ａ－３グリッドに位置する。遺構の大半が調査区外のため平面形態及び規模の詳細は不明である。

出土遺物はなく時期は不明である。

２号土坑（第22図）

２号土坑は調査区の北東Ａ－３グリッドに位置する。32号土坑と重複し、２号土坑が新しいことが確認されている。平面形態は長方形で規模は、長軸2.76m、短軸0.84m、深さ0.18mである。主軸方位はＮ－63°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

３号土坑（第22図）

３号土坑は調査区Ａ－３グリッドに位置する。土坑の北側に２号土坑があり、南東側には４号土坑がある。平面形態は隅丸長方形で、規模は長軸2.28m、短軸0.78m、深さ0.10mである。主軸方位はＮ－69°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

４号土坑（第22図）

４号土坑は調査区Ａ－３グリッドに位置する。土坑の北西側に３号土坑がある。平面形態は不整方形を呈する。規模は長軸1.62m、短軸1.50m、深さ0.10mを測る。主軸方位はＮ－57°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

５号土坑（第22図）

５号土坑はＢ－３グリッドに位置する。西側には１号掘立柱建物跡がある。平面形態は不整楕円形で、規模は長軸1.20m、短軸1.14m、深さ0.30mである。主軸方位はＮ－90°－Ｗを示す。

出土遺物は細い棒状の鉄製品の破片が出土した。時期は中・近世と考えられる。

６号土坑（第22図）

６号土坑はＢ－３グリッドに位置する。２号溝跡と重複し、切り合い関係から６号土坑が新しいことが確認されている。平面形態は不整楕円形で、規模は長軸1.32m、幅1.00m、深さ0.54mである。主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。出土遺物はなかった。時期は中世以降と考えられる。

７号土坑（第23図）

７号土坑はＣ－３グリッドに位置する。２号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形態及び規模は、小ピットの重複のため不明である。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

８号土坑（第23図）

８号土坑はＣ－３グリッドに位置する。35号土坑と２号溝跡と重複し、断面観察から８号土坑が35号土坑を切っていることが確認された。平面形態は残存部から長方形と推定される。規模は長軸が不明、短軸1.02m、深さ0.18mである。主軸方位はＮ－31°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

９号土坑（第23図）

９号土坑はＡ－４グリッドに位置する。２号溝跡と重複し、９号土坑が新しいことが確認されている。平面形態は長方形で、規模は長軸1.20m、短軸0.72m、深さ0.96mを測る。主軸方位はＮ－48°－Ｅを示す。

出土遺物は混入と思われる須恵器の小破片が出土した。時期は中・近世と考えられる。

10号土坑（第23図）

10号土坑はＢ－３・４グリッドに位置する。２号掘立柱建物跡と重複する。新旧は不明である。平面形態は不整楕円形で、規模は長軸1.08m、短軸0.90m、深さ0.43mである。主軸方位はＮ－38°－Ｅを示す。

出土遺物は土師器坏とカワラケの小破片が出土した。時期は中・近世と思われる。

11号土坑（第22図）

11号土坑はＣ－４グリッドに位置する。隣接して13・14・15・33号土坑がある。

平面形態は長方形で、規模は長軸1.50m、短軸1.20m、深さ0.36mである。主軸方位はＮ－27°－Ｅを示す。

出土遺物は土師器坏の破片が出土しているが混入と思われる。時期は中・近世と考えられる。

12号土坑（第24図）

12号土坑はＢ・Ｃ－４グリッドに位置する。５号溝跡南端の延長上にあり、13・14号土坑に隣接する。平面形態は長方形で、規模は長軸1.62m、短軸1.08m、深さ0.21mである。主軸方位はＮ－39°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

13号土坑（第24図）

13号土坑はＣ－４グリッドに位置する。11・15号土坑と隣接し、また３号掘立柱建物跡と重複する。平面形態は不整長方形で、規模は長軸2.70m、短軸1.20m、深さ0.24mである。主軸方位はＮ－33°－Ｅを示す。

出土遺物は土師器と青磁の小破片が出土した。時期は中世以降と考えられる。

14号土坑（第24図）

14号土坑はＢ－４グリッドに位置する。

12号土坑に隣接し、33号土坑と重複する。切り合い関係から14号土坑が新しいことが確認されている。平面形態は長方形で、規模は長軸2.10m、短軸1.08m、深さ0.48mである。主軸方位はＮ－50°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

15号土坑（第24図）

15号土坑はＣ－４グリッドに位置する。２・３号掘立柱建物跡と重複するが新旧は不明である。平面形態は不整長方形で、一部はピットに切られている。規模は長軸2.04m、短軸0.90m、深さ0.12mである。主軸方位はＮ－29°－Ｅを示す。

出土遺物は土師器の小破片が出土したが、混入と思われる。時期は中・近世と考えられる。

16号土坑（第24図）

16号土坑はＣ－４グリッドに位置する。２・３号掘立柱建物跡と重複するが新旧関係は不明である。平面形態は隅丸長方形で、規模は長軸1.68m、短軸1.14m、深さ0.15mである。主軸方位はＮ－30°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

17号土坑（第25図）

17号土坑はＢ－５グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は残存長2.58m短軸0.84m、深さ0.38mである。主軸方位はＮ－34°－Ｅを示す。埋土はロームブロックを少量含む黒褐色土である。底面は平坦で、ほぼ垂直に掘り込まれている。

出土遺物はカワラケの破片が出土した。時期は中世と考えられる。

18号土坑（第24図）

18号土坑はＣ－４・５グリッドに位置する。

平面形態は楕円形で、規模は長軸0.9m、短軸0.48m、深さ0.10mである。主軸方位はＮ－65°－Ｅを示す。

出土遺物は磁器の小破片が出土した。時期は中・近世と考えられる。

19号土坑（第25図）

19号土坑はＣ－４グリッドに位置する。34号土坑と重複し、断面観察から19号土坑が新しいことが確認されている。平面形態は不整長方形で、規模は長軸1.08m、短軸0.90m、深さ0.10mである。主軸方位はＮ－40°－Ｅを示す。

出土遺物は青磁の小破片が出土した。時期は中世と考えられる。

20号土坑（第25図）

20号土坑はＣ－４グリッドに位置し、19・34号土坑、３号溝跡に隣接する。平面形態は隅丸長方形で、規模は長軸1.20m、短軸0.84m、深さ0.18mである。主軸方位はＮ－70°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

21号土坑（第25図）

21号土坑はＤ－４グリッドに位置する。４号溝跡の西端部で重複し、他に23号土坑と重複している。新旧関係は不明である。平面形態は長方形で、規模は長軸2.34m、短軸1.44m、深さ0.30mである。主軸方位はＮ－27°－Ｅを示す。

出土遺物はカワラケの破片が出土している。時期は中世と考えられる。

22号土坑（第25図）

22号土坑はＢ－２グリッドに位置する。平面形態は遺構の西側が調査区外になる為不明である。規模は残存部で幅1.14m、深さ0.42mである。遺構の一部にピットの撹乱がある。

出土遺物は古銭と薄板状の銅製品がある。古銭は元豊通寶で北宋銭である。銅製品は薄板状の破片で角が丸く整形されている。種別は不明である。

時期は中世と考えられ、銭が出土していることから、墓坑の可能性がある。

23号土坑（第25図）

23号土坑はＤ－４グリッドに位置する。４号溝跡と21・24号土坑と重複しており、平面形態及び規模は不明である。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

24号土坑（第25図）

24号土坑はＤ－４グリッドに位置する。23号土坑と重複する。平面形態は残存部で楕円状を呈する。規模は不明である。

出土遺物は染付・半筒碗の破片が出土している。時期は不明確であるが近世以降と考えられる。

25号土坑（第26図）

25号土坑はＤ－６グリッドに位置し、７号掘立柱建物跡の南西に隣接する。平面形態は円形で、規模は直径1.26m、深さ0.33mである。底面は若干の凹凸がある。壁面はオーバーハングしており、袋状を呈する。

出土遺物は土師器片、カワラケ、磨石、加工痕のある角閃石安山岩の礫が出土した。埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土で、一括埋め戻しと思われる。時期は中世と考えられる。

26号土坑（第26図）

26号土坑はＣ－６グリッドに位置し、７号掘立柱建物跡の北西に隣接する。平面形態は楕円形で、規模は長軸1.44m、短軸1.20m、深さ0.10mで浅い。主軸方位はＮ－72°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

27号土坑（第26図）

27号土坑はＥ－６グリッドに位置し、４号溝跡の東に隣接する。平面形態は楕円形で、規模は長軸0.72m、短軸0.60m、深さ0.30mである。主軸方位はＮ－21°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

28号土坑（第26図）

28号土坑はＥ－６グリッドに位置し、４号溝跡と29・30号土坑の間にある。平面形態は円形で直径1.00m、深さ0.30mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

29号土坑（第26図）

29号土坑はＥ－６グリッドに位置し、４号溝跡と28号土坑に隣接する。平面形態は円形で直径1.00m、深さ0.15mである。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

30号土坑（第26図）

30号土坑はＥ－５・６グリッドに位置する。北側で４号溝跡と重複する。新旧関係は不明である。平面形態は長方形で南側は調査区外に延びる。規模は残存長3.00m、短軸1.08m、深さ0.90mである。土坑としたが断面の形状から溝跡の可能性もある。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

31号土坑（第26図）

31号土坑はＤ－５グリッドに位置し、４号溝跡と重複する。平面形態は不整長方形で、規模は長軸1.56m、短軸1.14m、深さ0.18mである。主軸方位はＮ－74°－Ｗを示す。

出土遺物は青磁蓮弁文碗の破片が出土している。龍泉窯系の青磁と思われる。時期は中世と考えられる。

32号土坑（第22図）

32号土坑はＡ－３グリッドに位置する。調査区の北西コーナーにあり、２号土坑と重複している。西側は調査区外に延びる。新旧関係は32号土坑が古いことが確認されている。平面形態及び規模は不明であるが、主軸は２号土坑とほぼ同じと思われる。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

33号土坑（第24図）

33号土坑はＢ－４グリッドに位置する。14号土坑と重複し、断面観察から33号土坑が古いことが確認されている。平面形態は重複のため不明確だが長方形と推定される。規模は残存長1.02m、短軸0.84m、深さ0.12mである。主軸方位はＮ－42°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中・近世と考えられる。

34号土坑（第25図）

34号土坑はＣ－４グリッドに位置する。19号土坑と重複し、34号土坑が古いことが確認されている。平面形態は不整長方形で、規模は残存長1.38m、短軸0.66m、深さ0.10mである。主軸方位はＮ－64°－Ｗを示す。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

35号土坑（第23図）

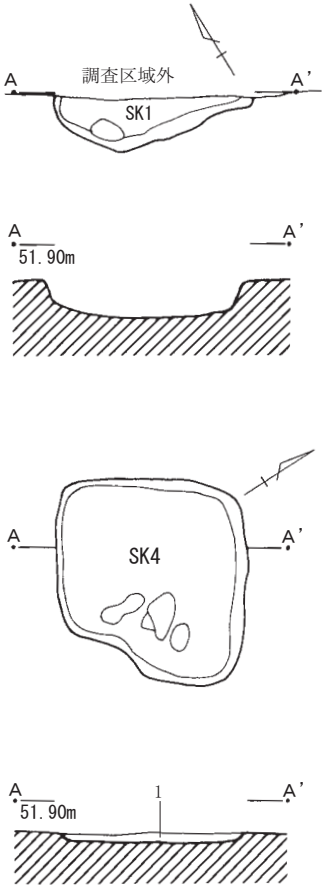
35号土坑はＣ－３グリッドに位置し、２号溝跡、８号土坑と重複する。35号土坑は２号溝跡より新しく、８号土坑より古いことが断面観察により確認された。平面形態は長方形と推定される。規模は長軸2.70m、短軸1.14m、深さ0.10mである。主軸方位はＮ－30°－Ｅを示す。

出土遺物はなかった。時期は中世と考えられる。

36号土坑（第26図）

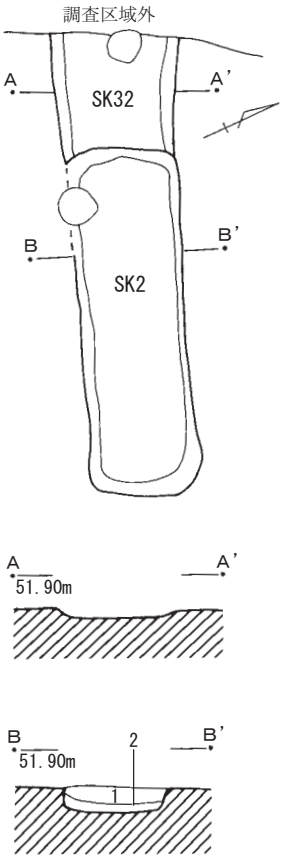
36号土坑はＣ－３グリッドに位置する。土坑の北側が１号溝跡により切られている。平面形態は残存部から方形ないし長方形と推定される。規模は残存長0.65m、残存幅0.96m、深さ0.15mである。主軸方位は不明。

出土遺物はなかった。時期は不明確であるが、１号溝跡との重複関係から中世と推定される。



4号土坑土層説明

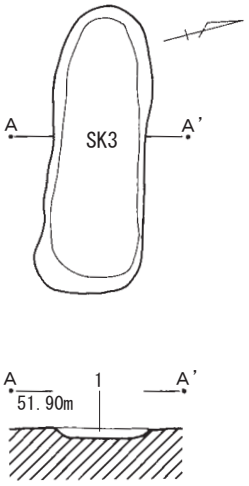
1　灰褐色土　A軽石多量、ローム粒少量、ロームブロック微量。しまり弱い。



2号土坑土層説明

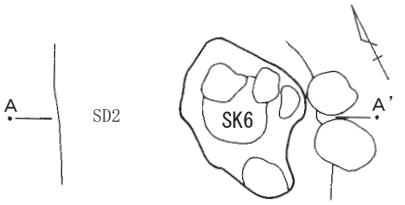
1　暗茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量。しまり弱い。

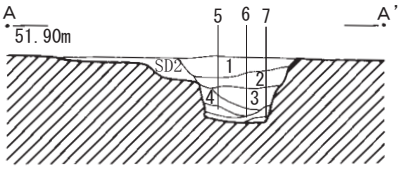
2　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。



3号土坑土層説明

1　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック（10～30mm）少量。しまり弱い。





6号土坑土層説明

1　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。

2　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。

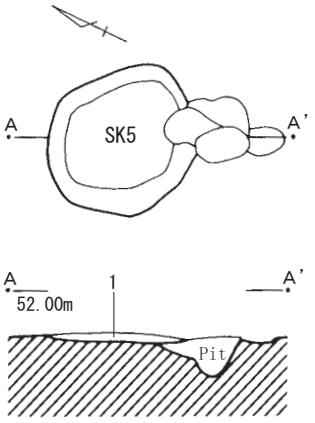
3　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量。

4　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。

5　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量。

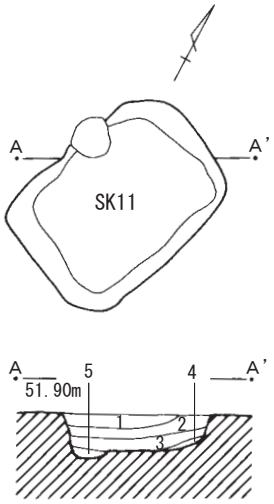
6　黒色土　ローム粒少量。

7　黄褐色土　ローム粒主体。



5号土坑土層説明

1　茶褐色土　A軽石少量、ローム粒・ロームブロック微量。しまり弱い。



11号土坑土層説明

1　暗茶褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。

2　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック微量。

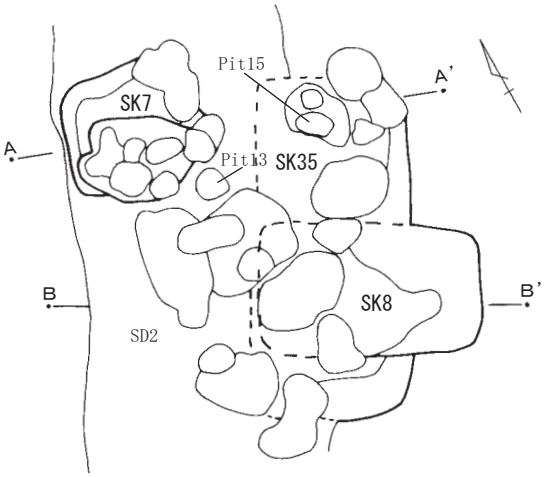
3　黒褐色土　ローム粒多量、ロームブロック少量。

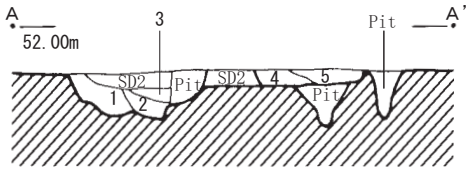
4　茶褐色土　ローム粒多量、ロームブロック微量。

5　黒色土　ローム粒少量。

0　2m

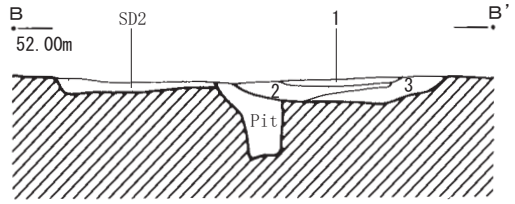
第22図　土坑群実測図（1）





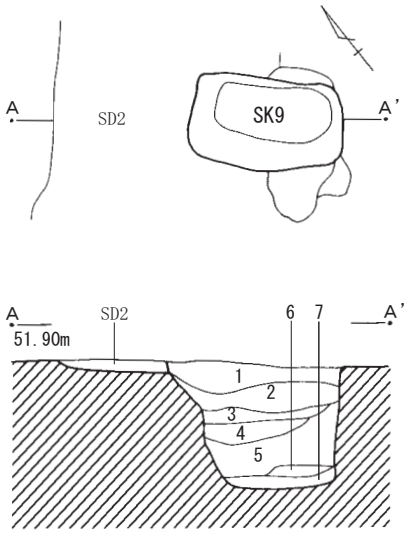
7号・35号土坑土層説明

1	黒色土	ローム粒・ロームブロック少量。
2	黒色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
3	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
4	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。



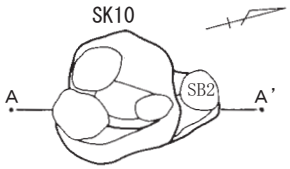
8号土坑土層説明

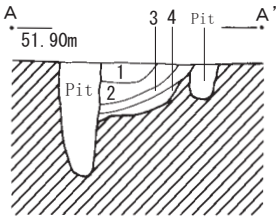
1	暗茶褐色土	A軽石少量、ローム粒微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
3	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。



9号土坑土層説明

1	茶褐色土	A軽石少量、ローム粒・ロームブロック微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量。
3	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
4	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。しまり弱い。
6	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。しまり弱い。
7	こげ茶色土	粘土（地山）主体。

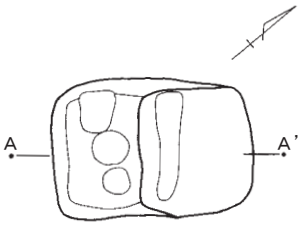


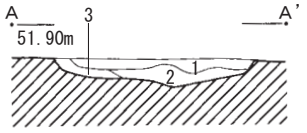


10号土坑土層説明

1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
4	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック多量。

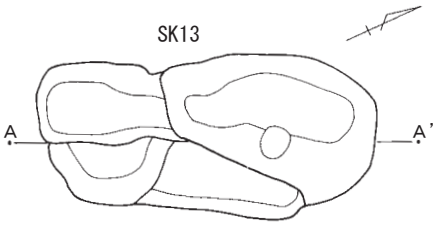
第23図　土坑群実測図（2）

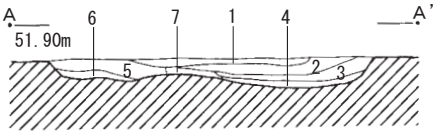




12号土坑土層説明

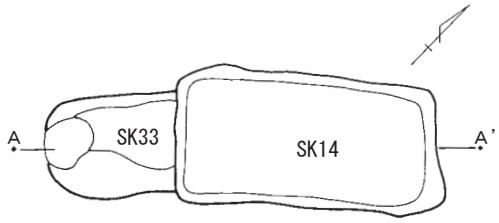
1	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。

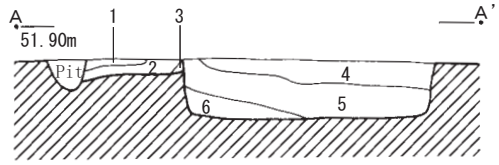




13号土坑土層説明

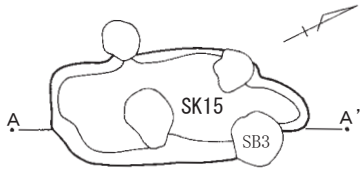
1	灰褐色土	試掘トレンチ跡。
2	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
4	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック・炭化粒微量。
6	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
7	黄褐色土	ローム主体。

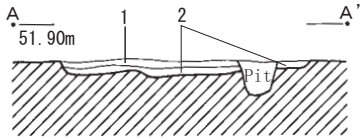




14号・33号土坑土層説明

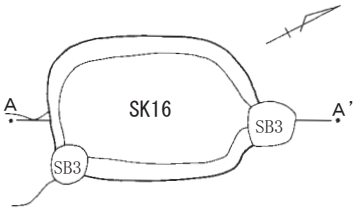
1	暗茶褐色土	ローム粒少量。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量。
3	黄褐色土	ローム主体。
4	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
6	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量。しまりやや弱い。

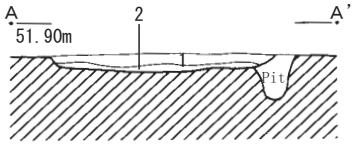




15号土坑土層説明

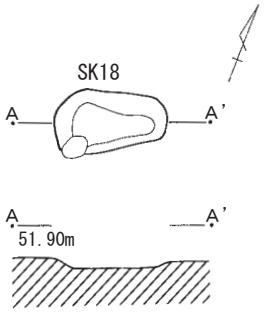
1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。



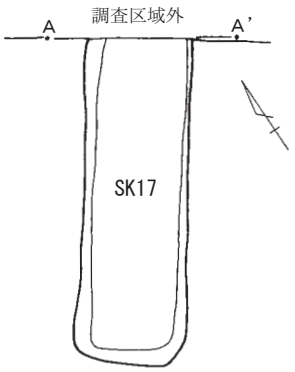


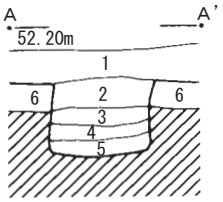
16号土坑土層説明

1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒色土	ローム粒少量。



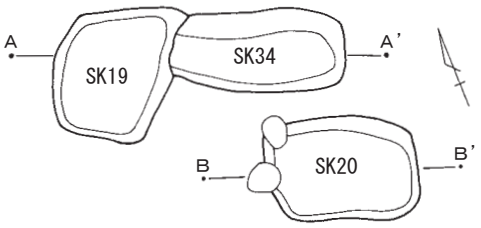
第24図　土坑群実測図（3）

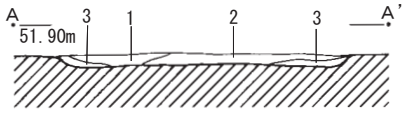


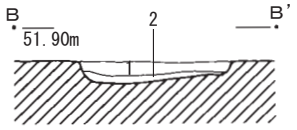


17号土坑土層説明

1	暗褐色土	A軽石少量、ローム粒微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
3	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
4	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
6	黄褐色土	ローム主体。







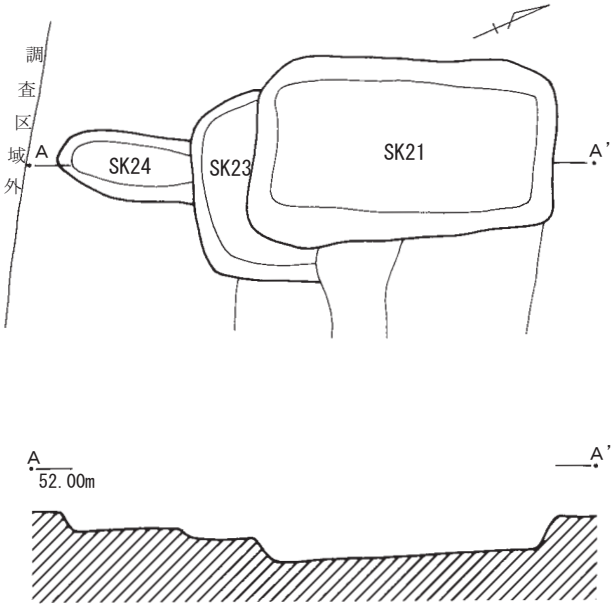
19号・20号・34号土坑土層説明

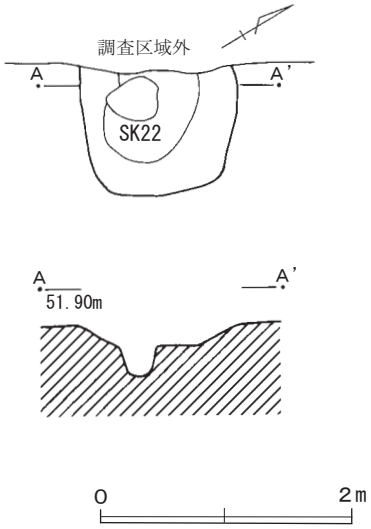
A－A'

1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒色土	ローム粒微量。
3	黄褐色土	ローム主体。

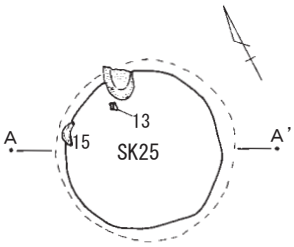
B－B'

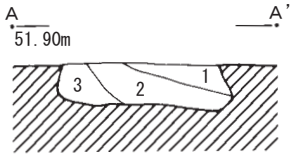
1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒色土	ローム粒微量。





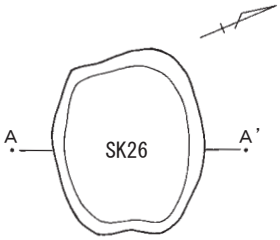
第25図　土坑群実測図（4）

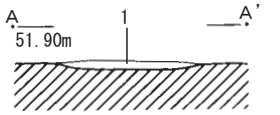




25号土坑土層説明

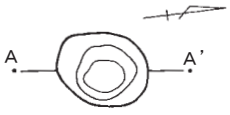
1	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
3	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック少量。

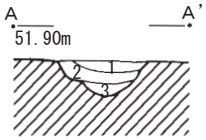




26号土坑土層説明

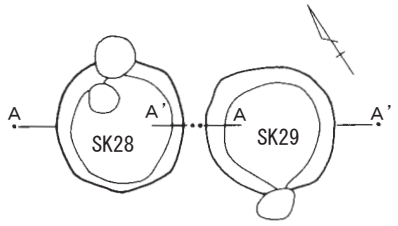
1	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。

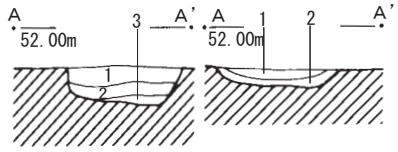




27号土坑土層説明

1	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黄褐色土	ローム主体。



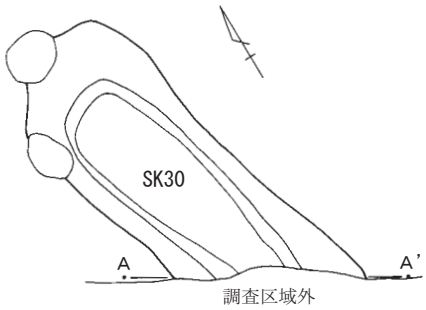


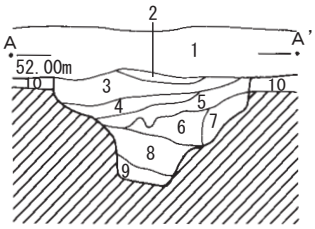
28号土坑土層説明

1	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック・パミス微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量。
3	黒色土	ローム粒・ロームブロック微量。

29号土坑土層説明

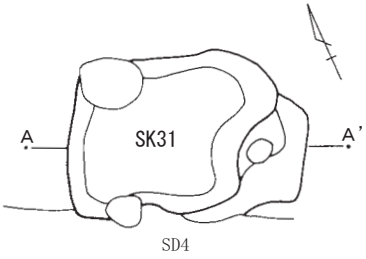
1	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック・白色パミス微量。
2	黒褐色土	ローム粒・ロームロック微量。

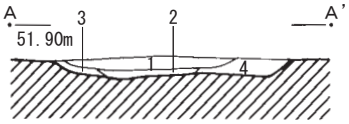




30号土坑土層説明

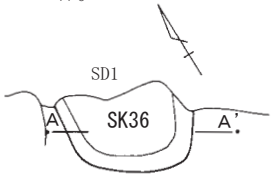
1	灰褐色土	
2	黒褐色土	白色パミス微量。
3	暗茶褐色土	ローム粒・白色パミス微量。
4	黒褐色土	ローム粒少量。
5	茶褐色土	ローム粒・ロームブロック少量。
6	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック・黒色土ブロック少量含む。
7	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック・白色パミス微量含む。
8	黒色土	白色パミス少量含む。しまり非常に強い。
9	黄褐色土	ローム主体。しまりあり。
10	黄褐色土	ローム主体。

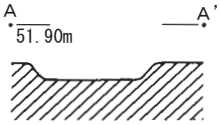




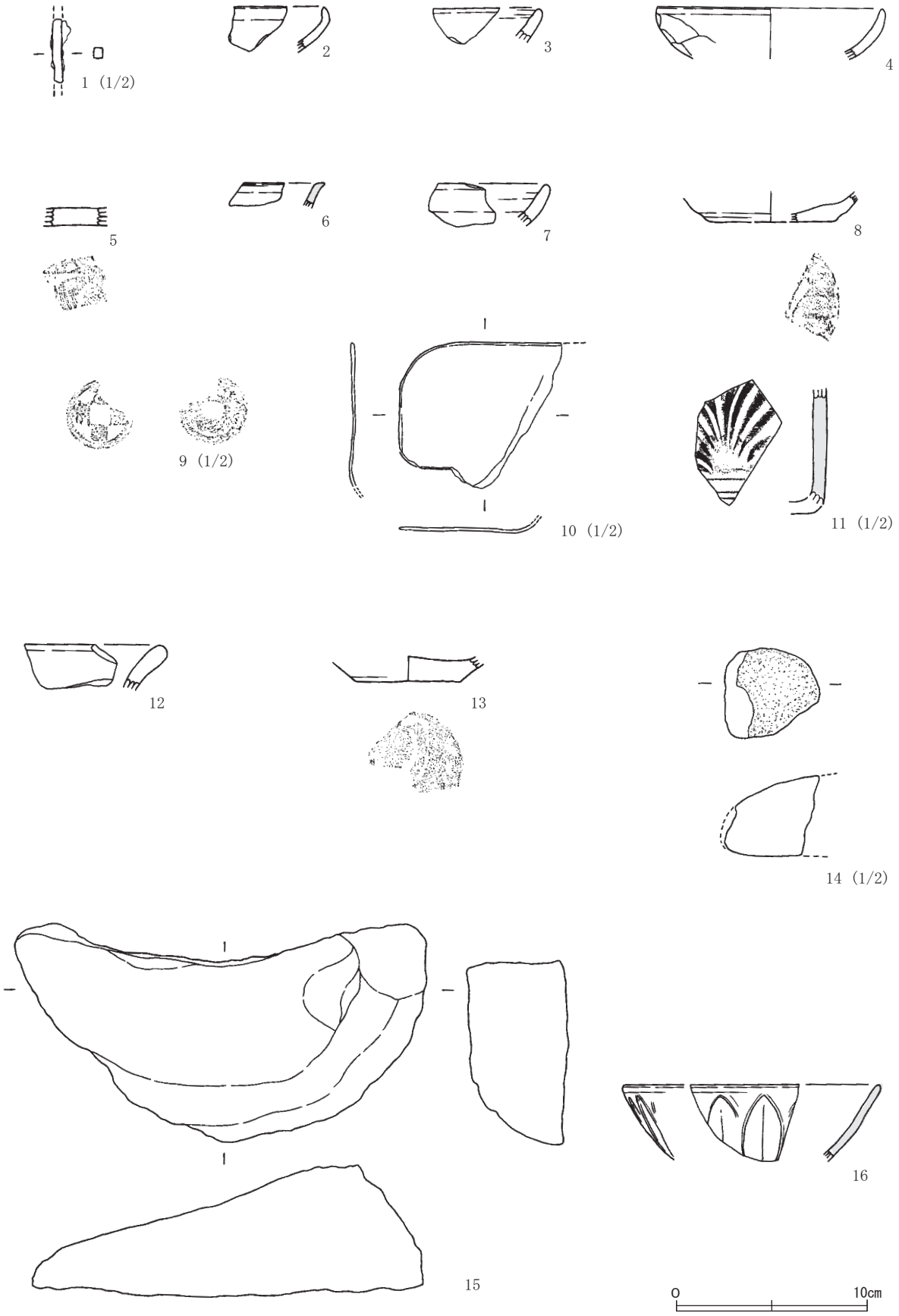
31号土坑土層説明

1	暗茶褐色土	ローム粒少量、A軽石・ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
3	茶褐色土	ローム粒多量、ロームブロック微量。
4	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。





第26図　土坑群実測図（５）



第27図　土坑群出土遺物実測図

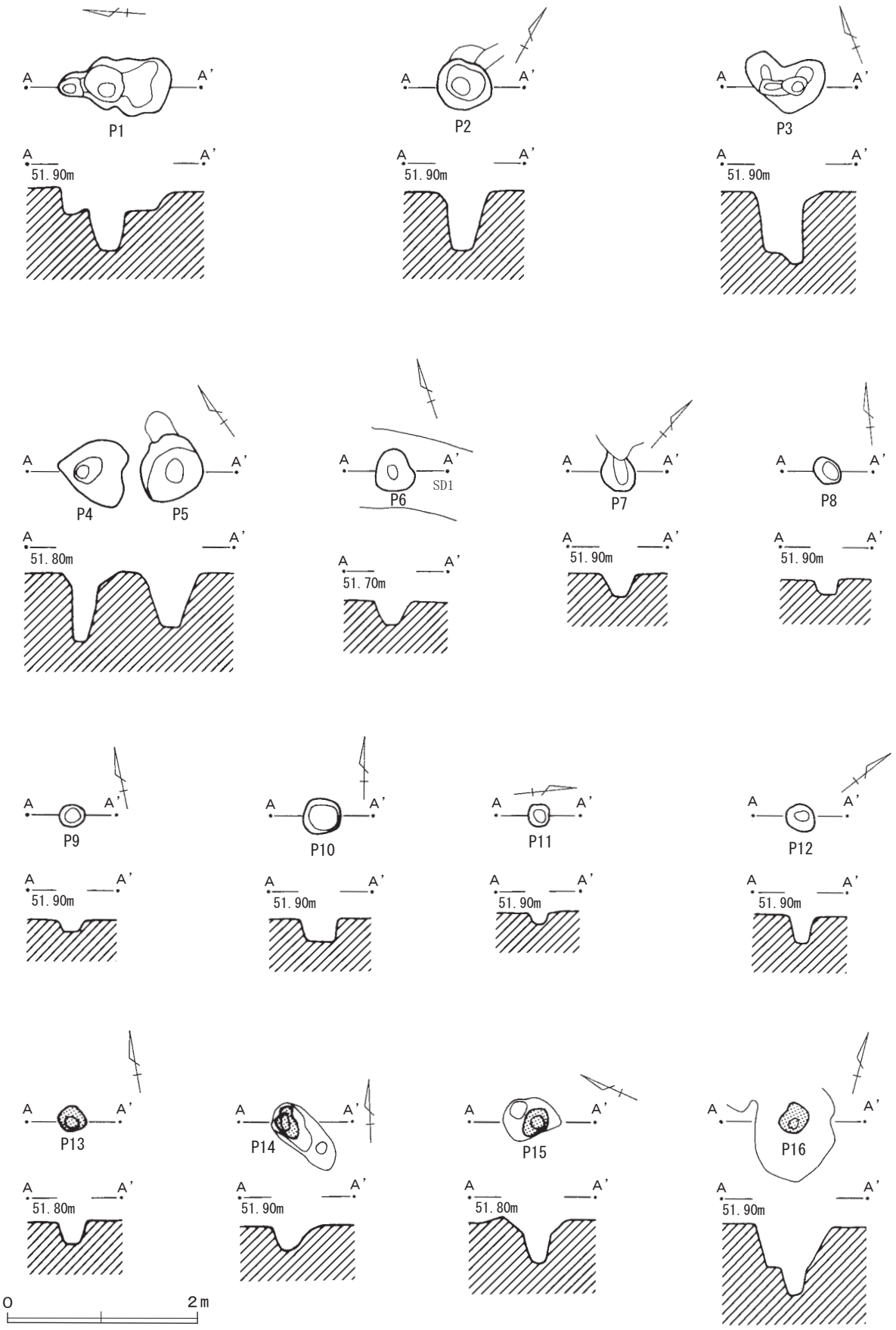
土坑出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	不明鉄製品	長さ2.2cm、幅0.3cm、厚さ0.35cm、重さ0.6g						破片	SK-5、細い角棒状
2	土師・坏	-	-	-	灰褐色	普通	微砂粒少量	破片	SK-10
3	カワラケ	-	-	-	灰橙色	普通	雲母、精良	破片	SK-10
4	土師・坏	(11.9)	《2.7》	-	にぶい橙色	普通	石英、角閃石	図示10%	SK-11
5	カワラケ	-	-	-	灰橙色	普通	石英、雲母	破片	SK-17、底部回転糸切り未調整
6	磁器・碗	-	-	-	灰白色	良好・堅緻	精良	破片	SK-18
7	カワラケ	-	-	-	淡灰褐色	普通	石英、雲母、微砂粒	破片	SK-21
8	カワラケ	-	《1.6》	(7.0)	灰橙色	普通	石英、チャート、微砂粒	図示25%	SK-21、回転糸切り未調整
9	古銭	外径24.0mm、内径18.8mm、内郭外径8.0mm、内郭内径6.25mm、外縁厚1.2mm、文字面厚0.8mm、重さ1.8g							SK-22、元豊通寶(初鋳1078年)
10	不明銅製品	長さ5.7cm、幅5.1cm、厚さ0.1cm、重さ16.0g						破片	SK-22、薄板状
11	染付・半筒碗	-	-	-	灰白色	良好・堅緻	精良	破片	SK-24、瀬戸・美濃系磁器
12	土師・小形甕	-	-	-	灰赤褐色	普通	微砂粒	破片	SK-25
13	カワラケ	-	-	-	灰橙色	普通	石英、長石、微砂粒	図示20%	SK-25、底部回転糸切り未調整
14	磨石	長さ3.3cm、幅3.1cm、厚さ2.8cm、重さ29.5g、石質安山岩							SK-25
15	加工礫	長さ21.5cm	幅9.5cm、厚さ6.6cm、重さ730g、石質角閃石安山岩					破片	SK-25
16	青磁・碗	(13.4)	《4.0》cm	-	淡灰緑色	良好・堅緻	精良	図示15%	SK-31、蓮弁文、龍泉窯系

ピット（第28図）

調査区からは多数の単独ピットが検出されている。ここでは遺物の出土したピットを掲載した。検出したピットの数16基で、平面形態は円形、楕円形を基本とする。規模は長軸24～78cm、深さ0.12～0.75mである。

出土遺物は砥石、青磁碗、灰釉小皿、カワラケ、土師質高台埦、捏鉢、須恵器甕、鉄釘等で、そのほとんどが小破片である。遺構の性格は不明であるが、中世の遺物が多く、時期的には中世に属するピットと推定される。尚ピット13～16は大量の巻貝の殻が出土した遺構である。種別はタニシと思われ、２～３㎜の稚貝から４～５㎝の貝まで大きさはさまざまである。貝殻の出土したピットは、２号溝の中やその周辺に限られることや、また稚貝が多く混じることから人為的に投棄されたものではなく、自然に水場に集まって部分的に集中し繁殖したものと推定される。

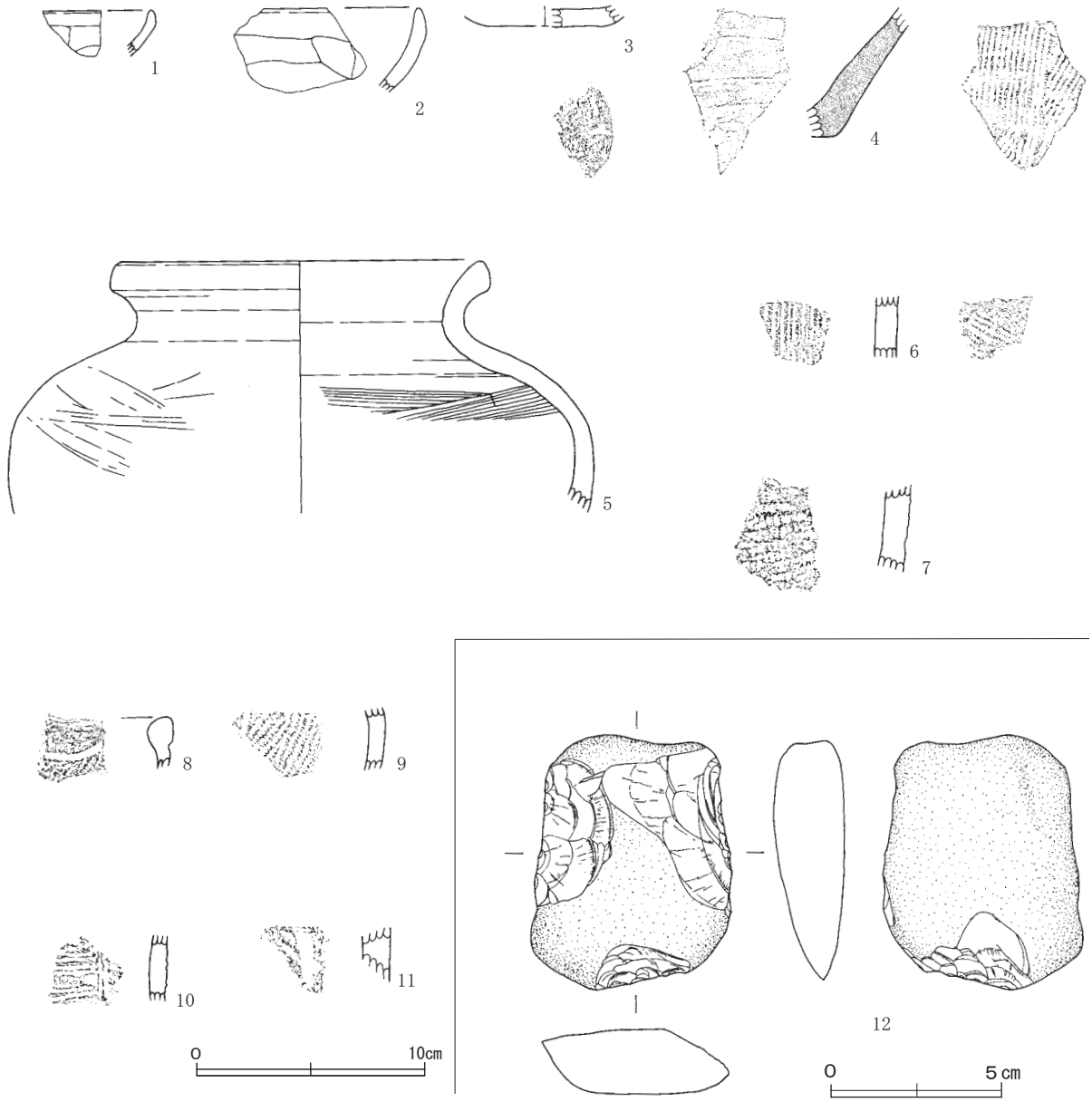


第28図　ピット群実測図

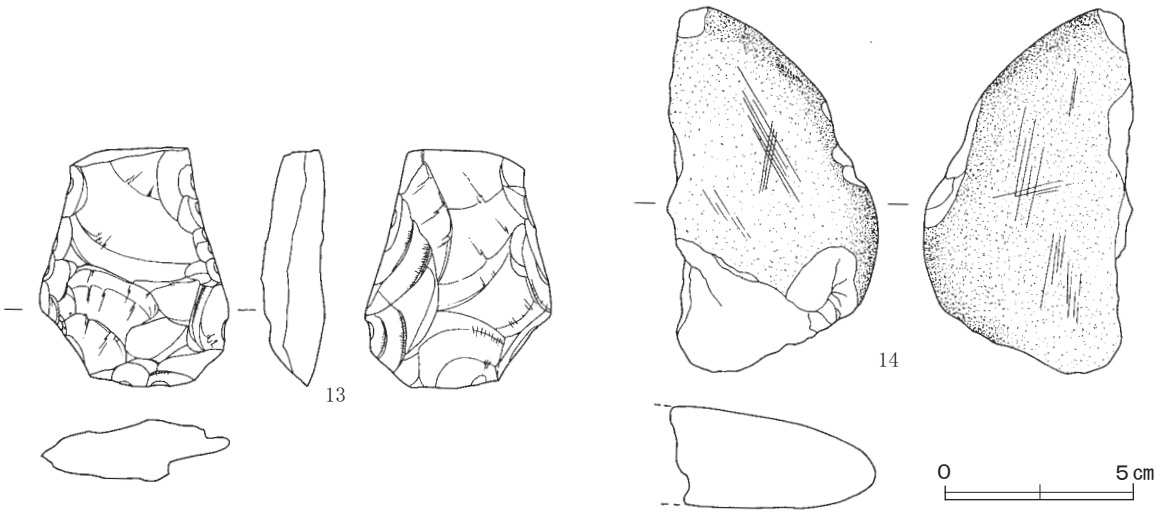
第29図　ピット群出土遺物実測図

ピット出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	砥石	長さ7.4cm、幅5.4cm、厚さ2.2cm、重さ66.2g、石質凝灰岩						破片	P-1
2	青磁・碗	-	-	-	淡灰緑色	良好・堅緻	精良	破片	P-1、蓮弁文、龍泉窯系
3	灰釉・小皿	(8.7)	《1.9》	-	明灰緑色	良好	精良	図示15%	P-2、瀬戸・美濃系磁器
4	須恵・甕	-	-	-	灰白色	不良	石英、長石、黒色粒	破片	P-3、外面平行、内面青海波叩き、末野
5	土師質・高台碗	-	《1.2》	5.8	灰橙褐色	普通	石英、長石	図示95%	P-3
6	土師・坏	-	-	-	灰褐色	やや悪	雲母、微砂粒	破片	P-4
7	砥石	長さ5.2cm、幅3.4cm、厚さ2.5cm、重さ60.4g、石質凝灰岩						100%	P-5
8	鉄釘	長さ3.7cm、幅0.6cm、厚さ0.5cm、重さ3.2g						破片	P-6
9	青磁・碗	-	《1.7》	(5.0)	淡灰緑色	良好・堅緻	精良	図示20%	P-7、草花文、龍泉窯系？
10	土師質・捏鉢	-	-	-	暗褐色	やや悪	微砂粒	破片	P-8、外面に煤付着
11	須恵・甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	P-9、外面平行、内面青海波叩き、末野
12	カワラケ	-	-	-	灰褐色	普通	雲母、片岩	破片	P-10、底部回転糸切り未調整、磨滅あり



第30図　表採・その他出土遺物実測図（1）



第31図　表採・その他出土遺物実測図（２）

表採・その他出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	土師・坏	-	-	-	橙褐色	普通	微砂粒	破片	表採
2	土師・坏	-	-	-	黄赤色	普通	石英、角閃石、砂粒	破片	表採
3	土師質・坏	-	《0.9》	(5.5)	灰黄赤色	普通	砂粒	図示20%	表採、底部回転糸切り未調整
4	擂鉢	-	-	-	暗茶褐色	良好	石英、長石、黒色粒	破片	表採、錆釉、瀬戸・美濃系
5	瓦質・壺	(15.8)	《11.1》	-	明灰色	普通	石英、長石、微砂粒	図示20%	表採、内面に刷毛目状工具のナデ
6	円筒埴輪	-	-	-	暗黄褐色	普通	石英、長石、細礫	破片	SD-2、外面タテハケ7本/2cm、内面ナナメハケ7本/2cm
7	縄文・深鉢	-	-	-	灰褐色	普通	砂粒多	破片	P-11覆土
8	縄文・深鉢	-	-	-	赤褐色	普通	砂粒	破片	SJ-1覆土
9	縄文・深鉢	-	-	-	赤褐色	普通	砂粒	破片	SJ-1覆土
10	縄文・深鉢	-	-	-	橙褐色	普通	砂粒	破片	SD-2覆土
11	縄文・深鉢	-	-	-	暗灰赤褐色	普通	砂粒	破片	SD-2覆土
12	礫器	長さ7.5cm、幅5.9cm、厚さ2.1cm、重さ117.8g、石質ホルンフェルス						100%	SD-4覆土
13	打製石斧	長さ6.3cm、幅5.0cm、厚さ1.6cm、重さ59.9g、石質砂岩						80%	表採、撥形か
14	磨石	長さ9.7cm、幅5.6cm、厚さ2.6cm、重さ165g、石質安山岩						50%	SD-4覆土

(2) 10次調査

Ａ区

１号溝跡（第33図）

１号溝跡はＦ－２・３グリッドに位置する。南東から北西に延び、１号土坑手前で北へＬ字状に屈曲し調査区外に延びる。規模は、長さ13.7m、幅0.42～0.54m、深さ0.09～0.28mである。

出土遺物はカワラケの破片と土師器甕の小破片が出土した。時期は中世と推定される。

２号溝跡（第34図）

２号溝跡はＦ－３グリッドに位置する。北東から南西に延び、１号溝跡と３号土坑と重複する。１号溝跡、３号土坑より新しいことが確認されている。規模は、検出した長さ1.40m、幅は断面観察から約1.80m、深さは30㎝である。

出土遺物はなかった。時期は近世と推定される。

１号土坑（第35図）

１号土坑はＦ－２グリッドに位置し、１号溝跡の西側に隣接する。平面形態は不明である。規模は、検出した長さ1.80m、幅1.70m、深さ0.40mである。土坑としたが、断面の形状から溝の可能性もある。

出土遺物はなかった。時期は中･近世と考えられる。

２号土坑（第35図）

２号土坑はＦ－２グリッドに位置する。遺構の大半が調査区外のため平面形態及び規模は不明である。

出土遺物はなかった。時期は不明である。

３号土坑（第35図）

３号土坑はＦ－３グリッドに位置する。２号溝跡と重複し、断面観察から３号土坑が２号溝跡に切られていることが確認されている。また、遺構の南側が調査区外のため、平面形態及び規模は不明である。

出土遺物はなかった。時期は中世と推定される。

Ｂ区

１号溝跡（第36図）

１号溝跡はＧ－５グリッドに位置する。南東から北西に走行する。規模は長さ3.90m、深さ約0.10m、幅は不明である。

出土遺物はなかった。時期は不明であるが、位置的にＡ区の１号溝跡に繋がる可能性がある。

１号土坑（第37図）

１号土坑はＧ－５グリッドに位置する。平面形態及び規模は遺構の大半が調査区外のため不明である。

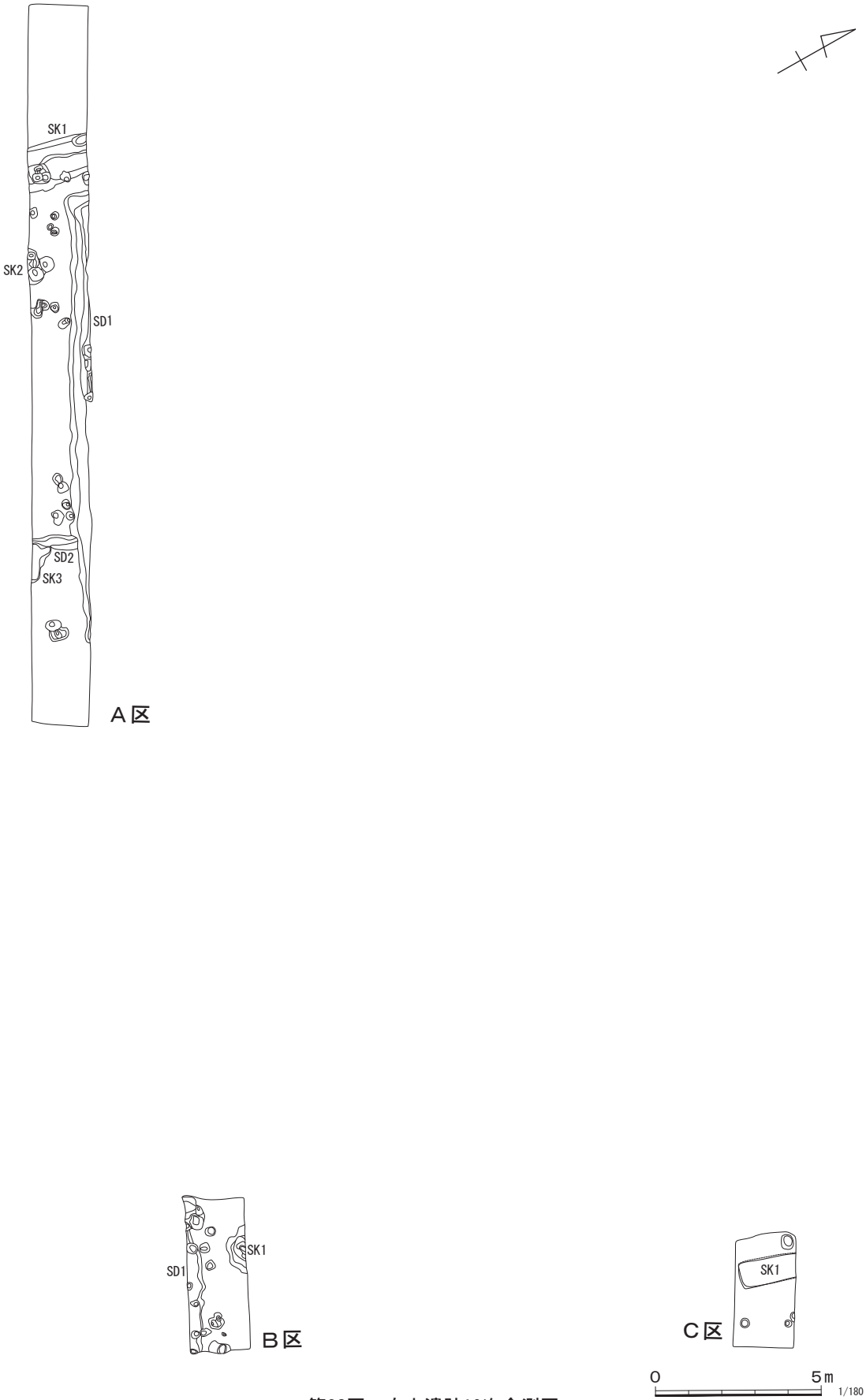
出土遺物はなかった。時期は不明である。

Ｃ区

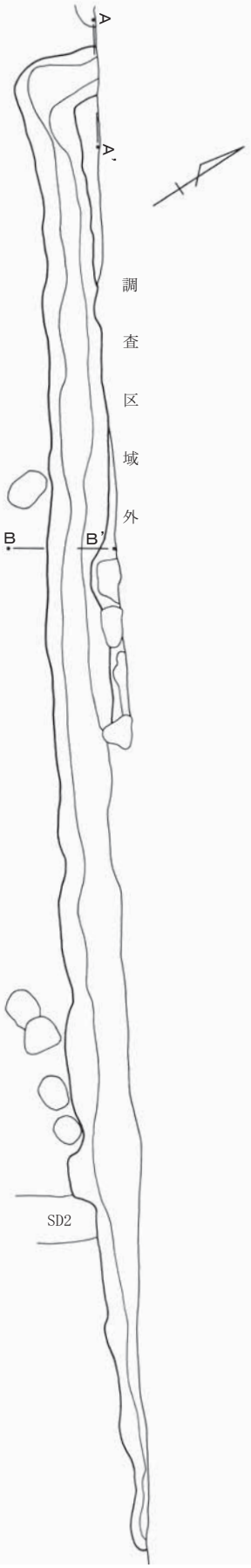
１号土坑（第38図）

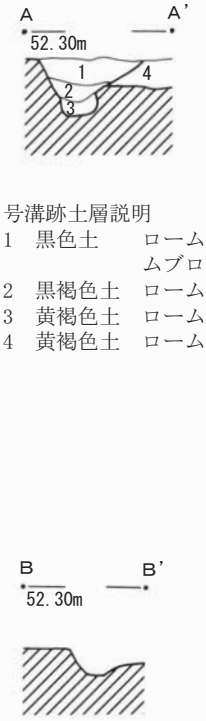
１号土坑はＥ・Ｆ－６グリッドに位置する。平面形態は長方形で、遺構の北側が調査区外に延びるため規模の詳細は不明である。残存長は1.80m、幅0.80m、深さ0.40mである。主軸方位はＮ－21°－Ｅを示す。埋土はロームブロックを多量に含む黒褐色土主体である。

出土遺物はなかった。時期は不明確であるが中・近世と考えられる。



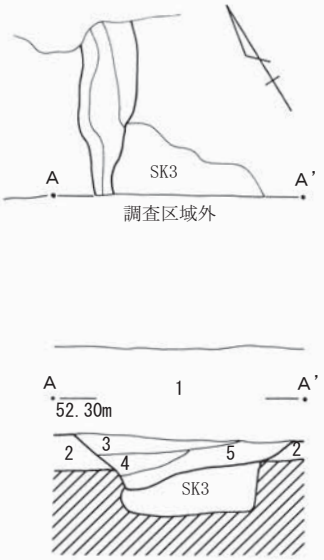
第32図　白山遺跡10次全測図





1号溝跡土層説明

1	黒色土	ローム粒・ローム ブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒少量。
3	黄褐色土	ローム粒主体。
4	黄褐色土	ローム主体。



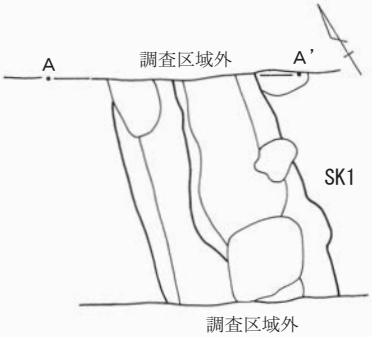
2号溝跡土層説明

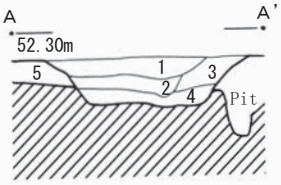
1	灰褐色土	
2	黄褐色土	ローム主体。
3	暗茶褐色土	ローム粒少量、ローム ブロック微量。
4	暗茶褐色土	ローム粒・ローム ブロック少量。
5	暗茶褐色土	ローム粒多量、ローム ブロック少量。

第34図　A区2号溝跡実測図

0　2m

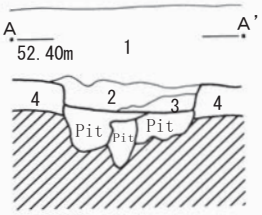
第33図　A区1号溝跡実測図





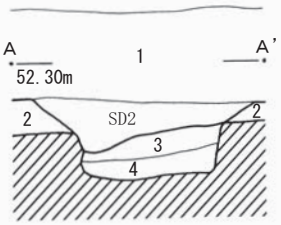
1号土坑土層説明

1	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
2	黒褐色土	ローム粒微量。
3	暗茶褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
4	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
5	黄褐色土	ローム主体。



2号土坑土層説明

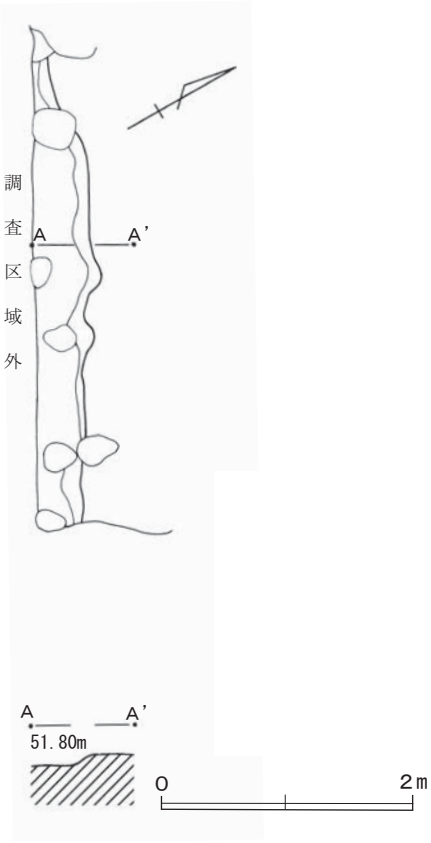
1	灰褐色土	A軽石少量、ローム粒微量。
2	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
3	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
4	黄褐色土	ローム主体。



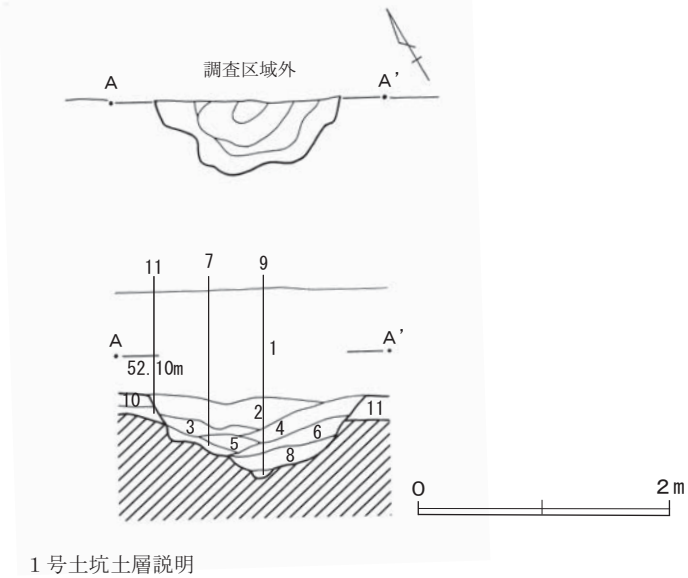
3号土坑土層説明

1	灰褐色土	A軽石少量、ロームブロック微量。
2	黄褐色土	ローム主体。
3	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。

第35図　A区土坑群実測図



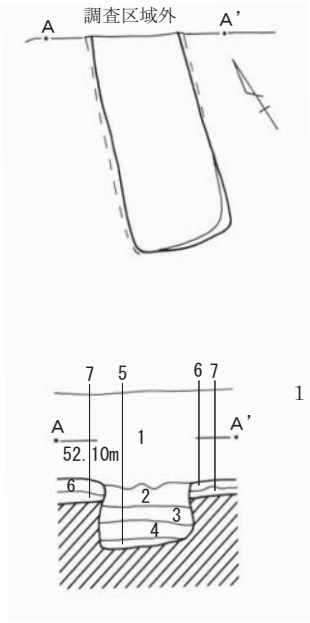
第36図　Ｂ区１号溝跡実測図



１号土坑土層説明

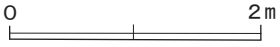
1	灰褐色土	Ａ軽石少量、ロームブロック微量。
2	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック微量。
3	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック微量。
4	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
5	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
6	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
7	黒色土	ローム粒・ロームブロック少量。
8	茶褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。しまり弱い。
9	黄褐色土	ロームブロック主体。
10	暗茶褐色土	ローム粒少量。
11	黄褐色土	ローム主体。

第37図　Ｂ区１号土坑実測図

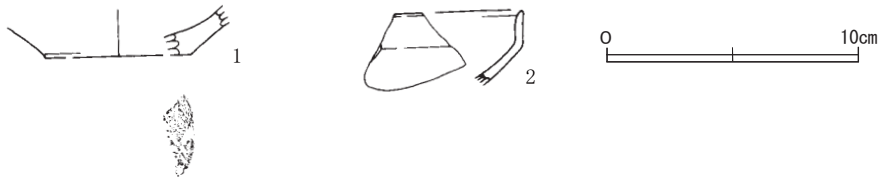


１号土坑土層説明

1	灰褐色土	Ａ軽石少量、ローム粒微量。（耕作土）
2	黒褐色土	ローム粒多量、ロームブロック少量。
3	黒褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
4	暗茶褐色土	ローム粒・ロームブロック多量。
5	黒色土	ローム粒少量、ロームブロック微量。
6	暗茶褐色土	ローム粒少量。
7	黄褐色土	ローム主体。



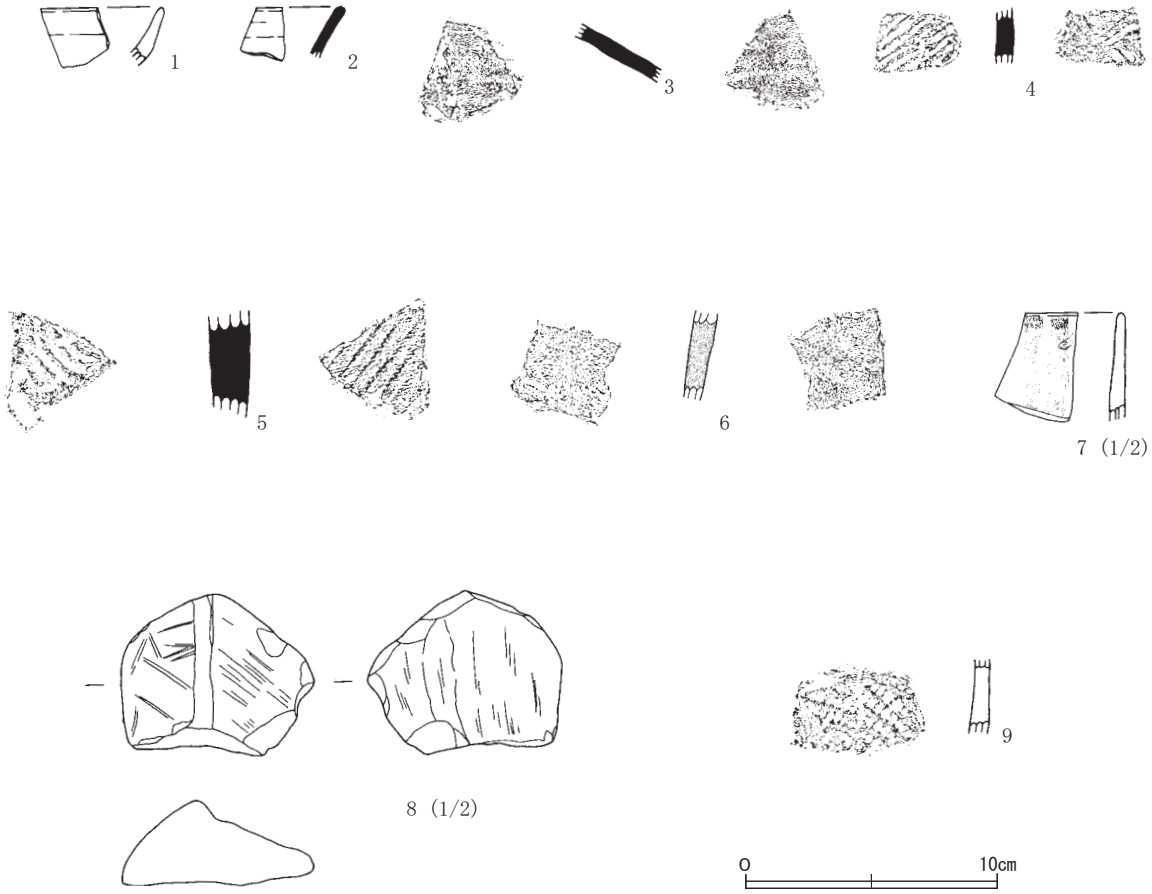
第38図　Ｃ区１号土坑実測図



第39図　Ａ区出土遺物実測図

Ａ区出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	カワラケ	-	《2.0》	(6.0)	灰褐色	普通	石英、雲母、微砂粒	図示20%	SD-1、底部回転糸切り未調整
2	土師・坏	-	-	-	橙褐色	やや悪	石英、角閃石、微砂粒	破片	Ａ区一括、磨滅あり



第40図　Ｂ区出土遺物実測図

Ｂ区出土遺物観察表

番号	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎　　土	残存率	備　　考
1	土師・坏	-	-	-	橙色	普通	石英、角閃石、パミス	破片	Ｂ区一括
2	須恵・高台椀	-	-	-	明灰色	良好	石英、長石	破片	Ｂ区一括
3	須恵・高台椀	-	-	-	灰白色	良好	石英、長石、黒色粒	破片	Ｂ区一括、群馬産？
4	須恵・甕	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	Ｂ区一括、外面平行、内面青海波叩き、末野
5	須恵・甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	Ｂ区一括、外面平行、内面青海波叩き、末野
6	陶器・甕	-	-	-	暗赤褐色	良好	石英、長石	破片	Ｂ区一括、常滑
7	染付半筒碗	-	-	-	灰白色	良好	精良	破片	Ｂ区一括、備前系磁器
8	砥石	長さ5.3cm、幅4.5cm、厚さ2.2cm、重さ55.2g、石質安山岩							Ｂ区一括
9	縄文・深鉢	-	-	-	にぶい橙色	やや悪	砂粒	破片	Ｂ区一括

Ⅳ　まとめ

白山遺跡では、10次に及ぶ発掘調査が行われてきた。これまでの成果を以下にまとめてみた。

古墳時代

白山古墳群は６世紀以降の築造と推定される古墳群で、遺跡の北西に展開する。２次調査において、24基が検出された。このうち17号墳は、古墳群中最大規模を有し、唯一の帆立貝式古墳である。規模は、周溝の外径で31mを測る。残る23基が円墳である。最大は５号墳で径28m、最小は６号墳で６ｍと規模に格差がある。

また、本古墳群からは形象埴輪が多量に出土している。特に２号墳からは、４体の巫女形埴輪がほぼ完全な姿で出土し、各々が当時の送葬儀礼を表現しているとされる。この他にも12号墳から巫女形埴輪、17号墳から琴を弾く男子埴輪が検出されている。２号墳から出土した鶏形埴輪は、類例の少ないものである。

また、２次調査北側の緩斜面には、蛇喰古墳がある。径20mを測る円墳で、本古墳群中唯一現存する古墳である。更に、その東方に築かれた古墳を削平したところ、馬形埴輪や人物埴輪などが出土したことが知られる。

奈良～平安時代

該期の集落は、２次調査地点の南から東にかけて展開する。竪穴住居跡100軒、掘立柱建物跡12棟が検出された。

出土遺物は、土師器・須恵器の多量な土器類をはじめ、貴重な遺物もみられる。２次調査78号住居跡と３次調査４号住居跡からは帯金具・小札・コップ形須恵器、６次調査５号住居跡から佐波理模倣椀、７次調査５号住居跡から「クルル鉤」が出土し、特筆される。

これらの遺物から、当遺跡群は官人層の居宅であったことが指摘される。近接して存在する榛沢郡家正倉跡と想定される中宿遺跡や榛沢評家と推測される熊野遺跡などとの関連が注目される。

なお、２次調査82号住居跡は、古墳空白地にあり、カマドを持たずに多量の焼土が検出されたことから「殯屋」の可能性が想定された。しかしながら、出土した土器類から７世紀第３四半期と考えられることから、地鎮的な祭祀行為が執り行われた可能性が指摘されている。

鎌倉～室町時代

竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡が検出された。

竪穴住居跡は、今回の調査が初の検出である。カマドを置かず、住居内四隅と壁中央に柱をもつものである。

掘立柱建物跡は、７棟が確認された。側柱建物を主体とし、総柱建物跡も３棟含まれる。

今回の調査では、竪穴住居跡と掘立柱建物跡が、軸を揃えて配置されている。各遺構の詳細な時期は明確にし得ないが、何らかの規制が働いていたものと推測される。

引用・参考文献

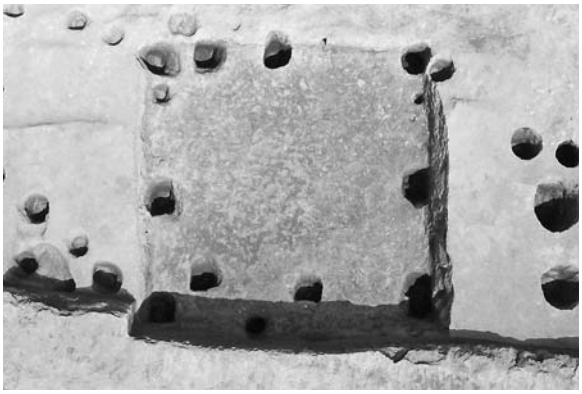
・埼玉県教育委員会「白山遺跡」1989
・岡部町教育委員会「町内遺跡」2004
・深谷市教育委員会「白山遺跡Ⅱ」2006
・深谷市教育委員会「白山遺跡Ⅲ」2007

第41図　白山遺跡遺構配置図

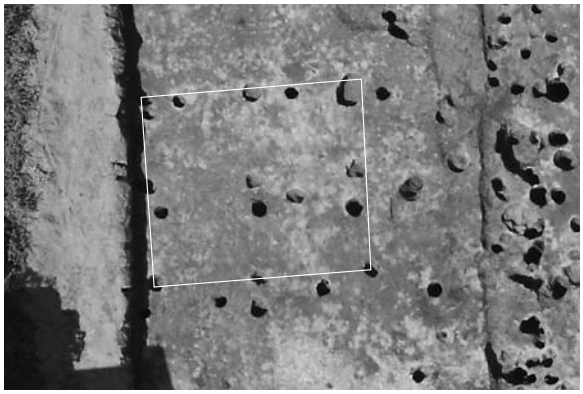
写 真 図 版

図版 1

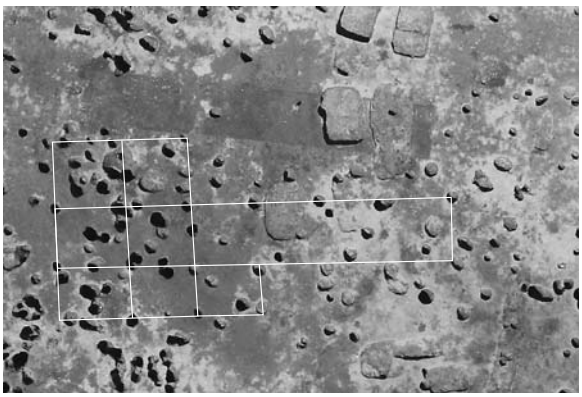
9 次・10次調査空撮



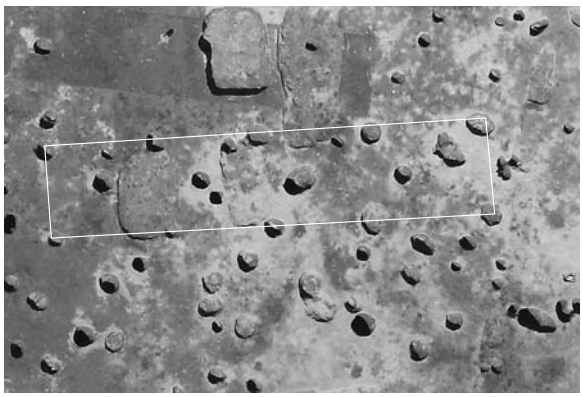
1 号竪穴住居跡



1 号掘立柱建物跡

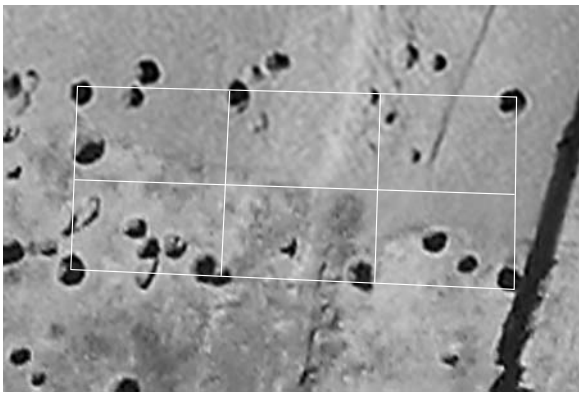


2 号掘立柱建物跡

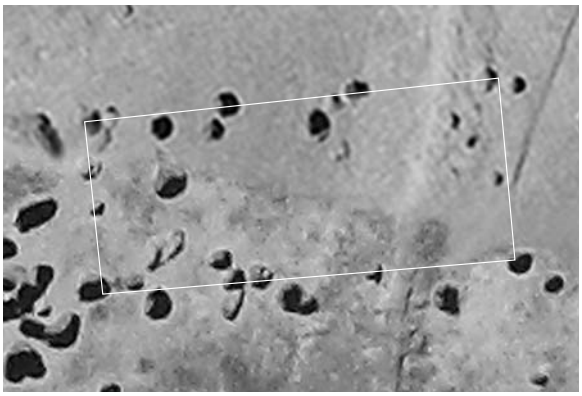


3 号掘立柱建物跡

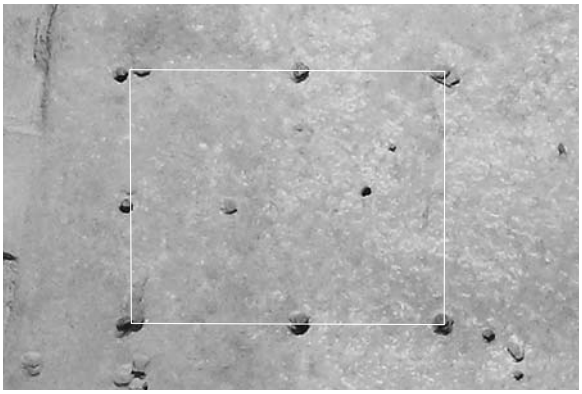
図版 2



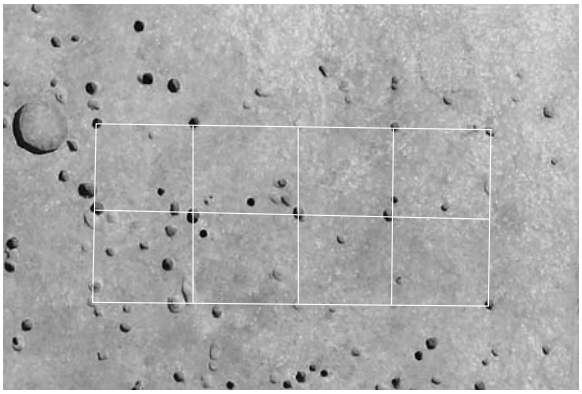
4 号掘立柱建物跡



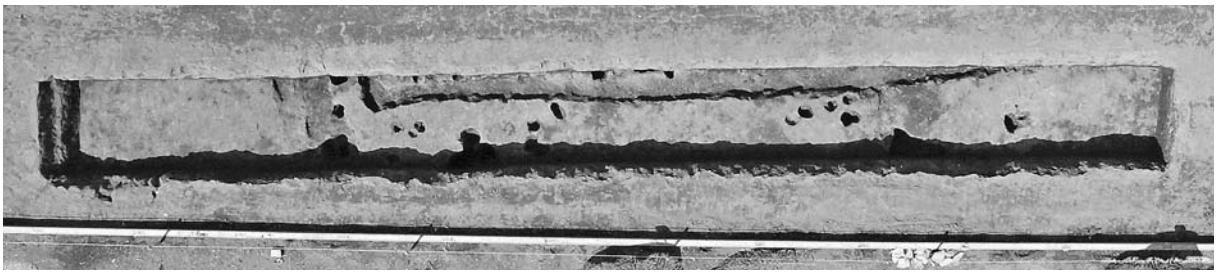
5 号掘立柱建物跡



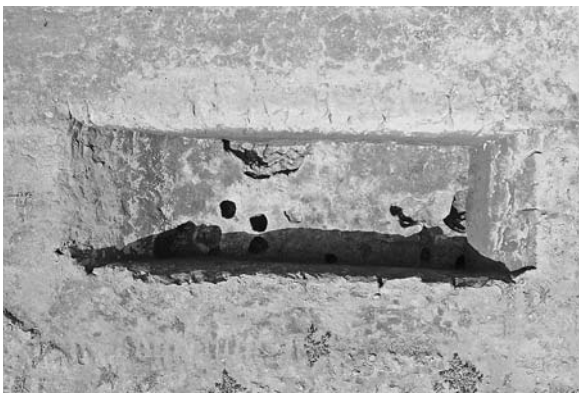
6 号掘立柱建物跡



7 号掘立柱建物跡



10次調査 A 区



10次調査 B 区

10次調査 C 区

図版 3

1 号住出土遺物

2 号掘立出土遺物

1 号溝No.1 ～ 4

6 号掘立出土遺物

2 号溝No.5 ～ 7

4 号溝出土銭貨

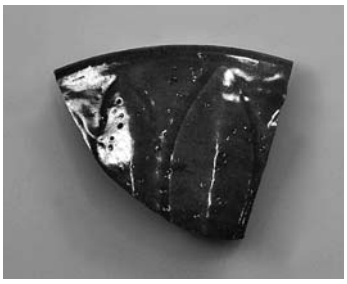
4 号溝出土鉄製品

4 号溝No.8 ～ 13

25号土坑No.12 ～ 15

図版４

土坑出土遺物№１～11



31号土坑遺物

ピット出土遺物

ピット出土タニシ

10次Ａ区遺物

表採・その他遺物

10次Ｂ区遺物

報告書抄録

ふりがな	しろやまいせき
書名	白山遺跡Ⅳ
副書名	
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第124集
編著者名	宮本直樹、竹野谷俊夫
編集機関	深谷市教育委員会
所在地	〒366－0823　埼玉県深谷市本住町17－3番地　TEL　048－572－9581
発行日	平成23年３月31日

所収遺跡	所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
白山遺跡（９次調査）	埼玉県深谷市岡字白山209-3	11210	63-008	36°12′28″	139°14′49″	平成22年７月６日から平成22年９月５日まで	1,700㎡	分譲住宅
白山遺跡（10次調査）	埼玉県深谷市岡字白山222-1	11210	63-008	36°12′27″	139°14′49″	平成22年８月２日から平成22年８月31日まで	56㎡	集合住宅

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白山遺跡（９次調査）	古墳群 集落跡	古墳時代～中世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡	陶磁器 カワラケ 古銭	区画溝をもつ中世の建物群が検出された。
白山遺跡（10次調査）	古墳群 集落跡	古墳時代～中世	溝跡 土坑	土師器 須恵器	なし

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第124集

白　山　遺　跡　Ⅳ

印　刷　　平成23年３月31日
発　行　　平成23年３月31日

発　　行　　埼玉県深谷市教育委員会